平成 30 年度

全国学力・学習状況調査

長野県の結果

長野県教育委員会

目　　次

Ⅰ　全国学力・学習状況調査の実施状況・・・

Ⅰ　全国学力・学習状況調査の実施状況

1　実 施 日　　平成 30 年４月 17 日（火）

2　対象学年　　小学校第６学年，特別支援学校小学部第６学年
　　中学校第３学年，特別支援学校中学部第３学年

3　調査事項及び手法

（1）　児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査（国語，算数･数学，理科※3）はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」※1と「主として『活用』に関する問題」※2を出題した。

※１　主として「知識」に関する問題
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能など。

※２　主として「活用」に関する問題
知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。

※３　理科については，主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うた。

② 質問紙調査は，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査を実施した。

（2）　学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施した。

4　平成 30 年４月 17 日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施学校数	児童数	実施学校数	生徒数
長野県（公立）	362 校	17,849 人	189 校	17,521 人
全　国（公立）	19,386 校	1,030,031 人	9,597 校	967,196 人

※調査を実施した児童生徒数は，回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出した。

※全国学力・学習状況調査の教科調査問題，質問紙調査問題，全国の状況などは，国立教育政策研究所のホームページ（http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html）を参照のこと。

Ⅱ　全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

１　教科に関する調査の結果と分析

（１）平成 30 年度教科に関する調査の結果と分析

① 小学校の平均正答率・平均正答数，正答数分布と分析

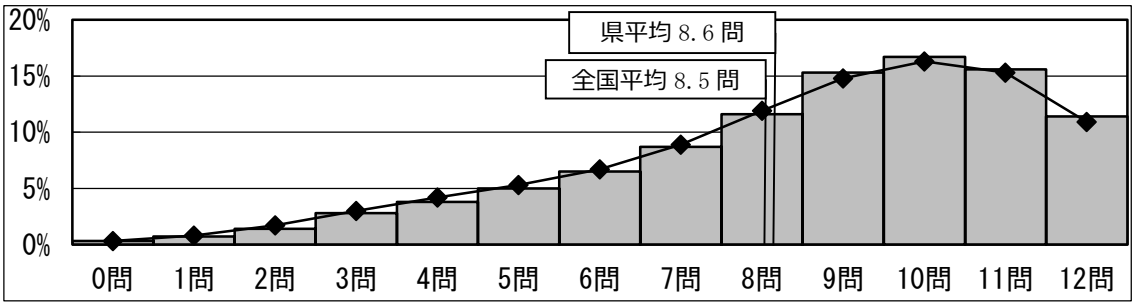
ｉ）平均正答率・平均正答数，正答数分布

〔表Ⅱ－１〕　教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（小学校）

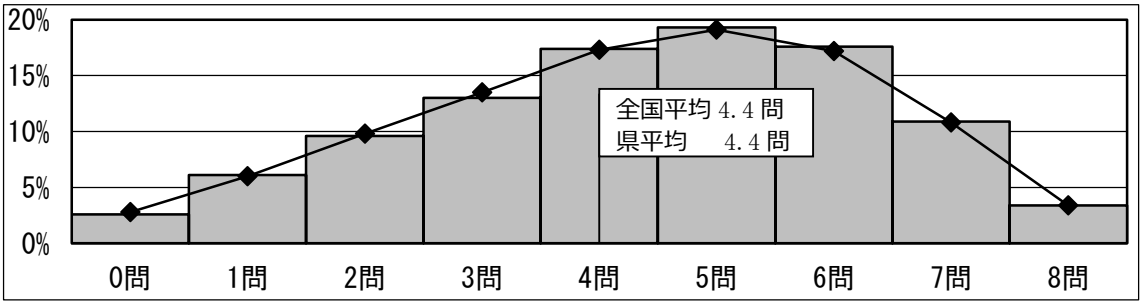
科目	区　分	平均正答率（%）	平均正答数／全問数（問）
国語Ａ	長野県（公立）	72	8.6／12
	全　国（公立）	71	8.5／12
国語Ｂ	長野県（公立）	55	4.4／８
	全　国（公立）	55	4.4／８
算数Ａ	長野県（公立）	62	8.7／14
	全　国（公立）	64	8.9／14
算数Ｂ	長野県（公立）	50	5/0／10
	全　国（公立）	52	5.1／10
理　科	長野県（公立）	61	9.8／16
	全　国（公立）	60	9.6／16

（グラフⅡ－１～５の横軸は正答数，縦軸は割合）

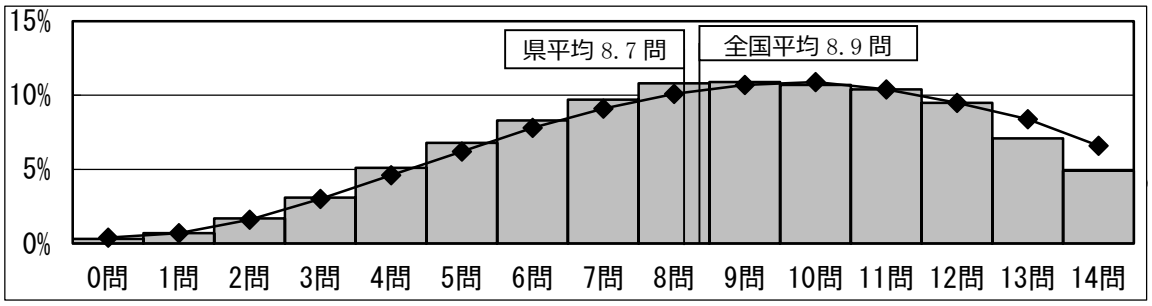
〔グラフⅡ－１〕　正答数分布グラフ（国語Ａ）



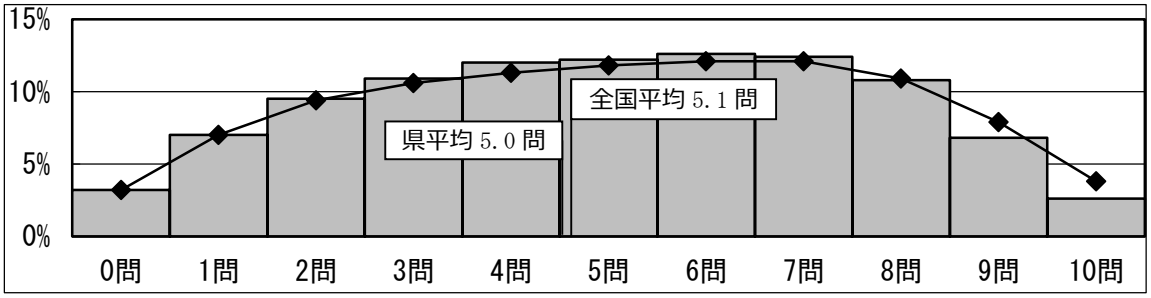
〔グラフⅡ－２〕　正答数分布グラフ（国語Ｂ）



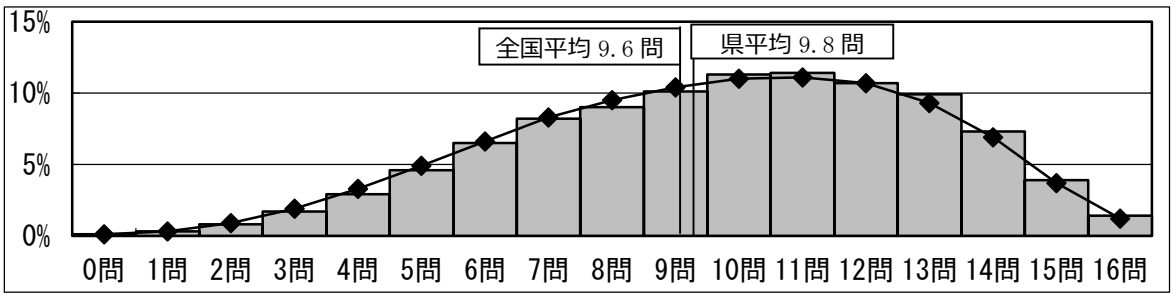
〔グラフⅡ－３〕　正答数分布グラフ（算数Ａ）



〔グラフⅡ－４〕　正答数分布グラフ（算数Ｂ）



〔グラフⅡ－５〕　正答数分布グラフ（理科）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語Ａと理科の平均正答率は，全国の平均正答率を１ポイント上回った。また，国語Ｂの平均正答率は，全国と同じである。（表Ⅱ－１）

◇国語Ａ，Ｂと理科については，正答数分布は全国とほぼ同様の傾向である。

（グラフⅡ－１，２，５）

◆算数Ａ，Ｂの平均正答率は，全国の平均正答率を２ポイント下回った。（表Ⅱ－１）

◆算数Ａでは，13 問以上正答した児童の割合は，全国と比べて低い。（グラフⅡ－３）

◆算数Ｂでは，９問以上正答した児童の割合は，全国と比べてやや低い。（グラフⅡ－４）

② 中学校の平均正答率・平均正答数，正答数分布と分析

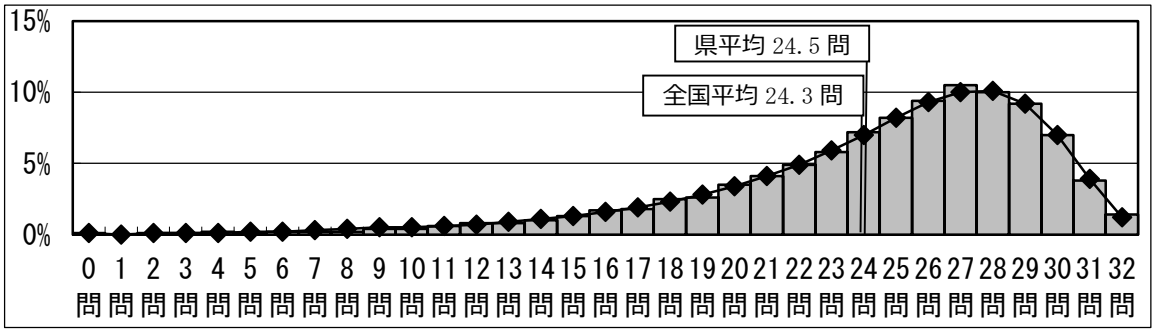
ｉ）平均正答率・平均正答数，正答数分布

〔表Ⅱ－２〕　教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（中学校）

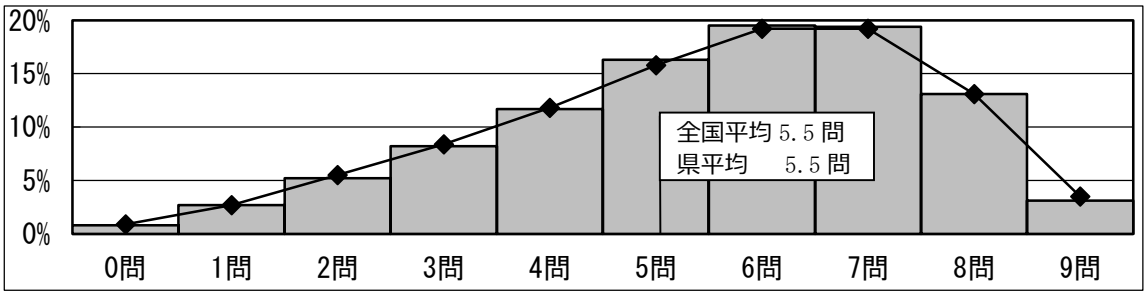
科目	区　分	平均正答率（%）	平均正答数／全問数（問）
国語Ａ	長野県（公立）	76	24.5／32
	全　国（公立）	76	24.3／32
国語Ｂ	長野県（公立）	61	5.5／９
	全　国（公立）	61	5.5／９
数学Ａ	長野県（公立）	65	23.6／36
	全　国（公立）	66	23.8／36
数学Ｂ	長野県（公立）	46	6.4／14
	全　国（公立）	47	6.6／14
理　科	長野県（公立）	66	17.9／27
	全　国（公立）	66	17.9／27

（グラフⅡ－６～10 の横軸は正答数，縦軸は割合）

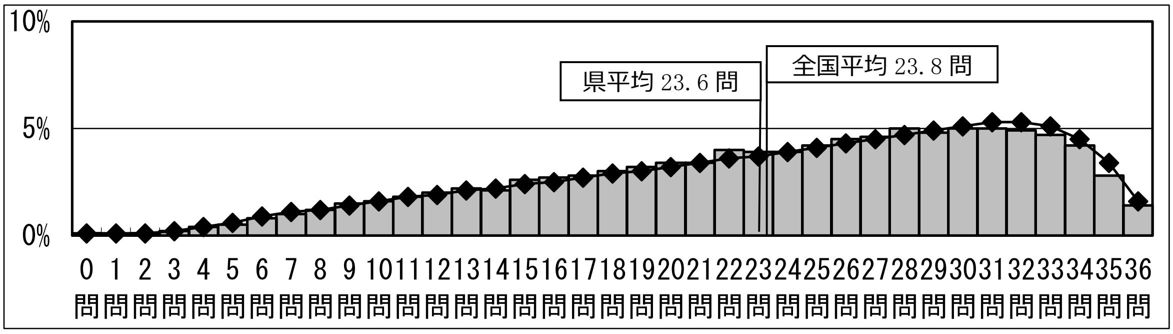
〔グラフⅡ－６〕　正答数分布グラフ（国語Ａ）



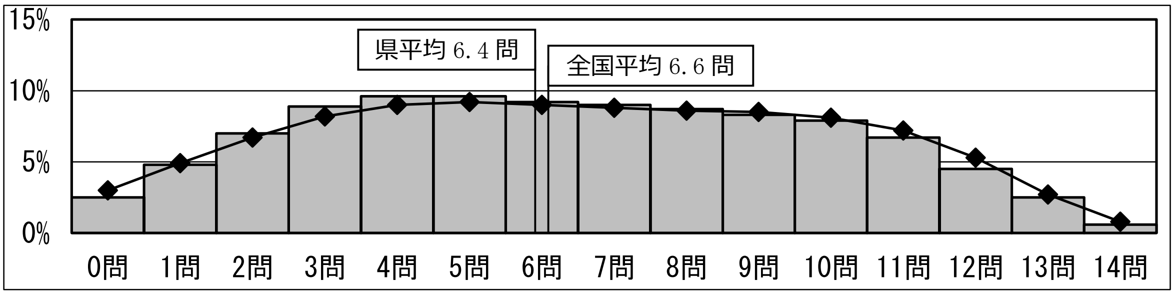
〔グラフⅡ－７〕　正答数分布グラフ（国語Ｂ）



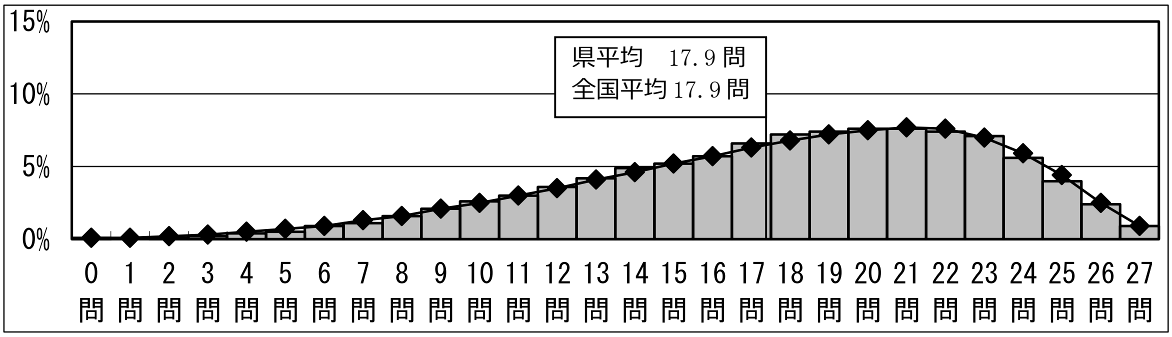
〔グラフⅡ−８〕　正答数分布グラフ（数学Ａ）



〔グラフⅡ−９〕　正答数分布グラフ（数学Ｂ）



〔グラフⅡ−10〕　正答数分布グラフ（理科）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語Ａ，Ｂ，理科の平均正答率は，全国と同じである。（表Ⅱ−２）

◇国語Ａ，Ｂ，理科の正答数分布は全国とほぼ同様の傾向である。（グラフⅡ−６，７，10）

◆数学Ａ，Ｂの平均正答率は，全国を１ポイント下回った。（表Ⅱ−２）

◆数学Ａでは，正答数が 33 問から 35 問の生徒の割合がやや低い。（グラフⅡ−８）

◆数学Ｂでは，正答数が２問から５問の生徒の割合がやや高く，11 問，12 問の生徒の割合がやや低い。（グラフⅡ−９）

（２）これまで（平成 19 年度～平成 30 年度）の調査結果の経年変化と分析

① 小学校の経年変化（平均正答率）と分析

ｉ）平均正答率

〔表Ⅱ－３〕　教科に関する調査の平均正答率の経年変化（小学校）

		H19（悉皆）	H20（悉皆）	H21（悉皆）	H22※（抽出）	H24※（抽出）	H25（悉皆）	H26（悉皆）	H27（悉皆）	H28（悉皆）	H29（悉皆）	H30（悉皆）
国語A	長野県（公立）	82	67	70	83～85	82～83	64	73	70	74	75	72
	全国（公立）	82	65	70	83～84	81～82	63	73	70	73	75	71
	全国との差	0	＋２	0			＋１	0	0	＋１	0	＋１
国語B	長野県（公立）	63	51	51	78～80	55～57	50	57	66	59	57	55
	全国（公立）	62	51	51	78	55～56	49	56	65	58	58	55
	全国との差	＋１	0	0			＋１	＋１	＋１	＋１	－１	0
算数A	長野県（公立）	84	72	80	73～75	72～74	78	79	75	77	78	62
	全国（公立）	82	72	79	74	73～74	77	78	75	78	79	64
	全国との差	＋２	0	＋１			＋１	＋１	0	－１	－１	－２
算数B	長野県（公立）	64	51	54	48～49	58～60	60	59	45	47	46	50
	全国（公立）	64	52	55	49～50	59	58	58	45	47	46	52
	全国との差	0	－１	－１			＋２	＋１	0	0	0	－２
理科	長野県（公立）					60～62			61			61
	全国（公立）					61			61			60
	全国との差								0			＋１

※H22 年度，H24 年度調査は抽出で実施されたため，全員を対象とした調査（悉皆調査）の平均正答率が 95％の確率で含まれる範囲を「○～○」と示している。

ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

平成 25 年度調査からの６年間において，次のことが分かる。

◇国語Ａは全国の平均正答率との差は，０から＋１の範囲で推移している。（表Ⅱ－３）

◇国語Ｂは，平成 25 年度から平成 28 年度までは全国の平均正答率との差が＋１であったものが昨年度は－１となったものの，今年度は０である。（表Ⅱ－３）

◇理科の全国の平均正答率との差は，前回は０であったが今回は＋１である。（表Ⅱ－３）

◆算数Ａは，平成 25，26 年度は全国の平均正答率との差が＋１であったのが，平成 27 年度は０，平成 28 年度からは－１となり，今年度は－２である。（表Ⅱ－３）

◆算数Ｂは，平成 25 年度は全国の平均正答率との差が＋２であったのが，平成 26 年度は＋１，平成 27 年度から平成 29 年度は０となり，今年度は－２である。（表Ⅱ－３）

② 中学校の経年変化（平均正答率）と分析

ｉ）平均正答率

〔表Ⅱ－４〕　教科に関する調査の平均正答率の経年変化（中学校）

		H19（悉皆）	H20（悉皆）	H21（悉皆）	H22※（抽出）	H24※（抽出）	H25（悉皆）	H26（悉皆）	H27（悉皆）	H28（悉皆）	H29（悉皆）	H30（悉皆）
国語A	長野県（公立）	84	74	78	74～75	76～77	77	80	76	76	78	76
	全国（公立）	82	74	77	75	75	76	79	76	76	77	76
	全国との差	＋２	０	＋１			＋１	＋１	０	０	＋１	０
国語B	長野県（公立）	73	61	75	63～65	63～65	66	49	65	66	72	61
	全国（公立）	72	61	75	65～66	63	67	51	66	67	72	61
	全国との差	＋１	０	０			－１	－２	－１	－１	０	０
数学A	長野県（公立）	73	63	63	61～64	61～64	62	67	64	61	64	65
	全国（公立）	72	63	63	64～65	62	64	67	64	62	65	66
	全国との差	＋１	０	０			－２	０	０	－１	－１	－１
数学B	長野県（公立）	62	50	57	40～43	47～50	40	58	41	44	48	46
	全国（公立）	61	49	57	43～44	49～50	42	60	42	44	48	47
	全国との差	＋１	＋１	０			－２	－２	－１	０	０	－１
理科	長野県（公立）					50～52			53			66
	全国（公立）					51			53			66
	全国との差								０			０

※H22 年度，H24 年度調査は抽出で実施されたため，全員を対象とした調査（悉皆調査）の平均正答率が95％の確率で含まれる範囲を「○～○」と示している。

ⅱ）分析

◇：成果　◆：課題

平成 25 年度調査からの６年間において，次のことが分かる。

◇国語Ａの全国の平均正答率との差は，０から＋１の範囲で推移している。（**表Ⅱ－４**）

◇国語Ｂは，平成 28 年度までは全国の平均正答率を下回っていたが，昨年度から全国の平均正答率とほぼ同じになっている。（**表Ⅱ－４**）

◇理科の全国の平均正答率との差は，前回，今回とも０である。（**表Ⅱ－４**）

◆数学Ａは，平成 28 年度から，全国の平均正答率との差が－１である。（**表Ⅱ－４**）

◆数学Ｂは，平成 25，26 年度は全国の平均正答率との差が－２であったものが平成 28 年度からは０となったものの，今年度は－１である。（**表Ⅱ－４**）

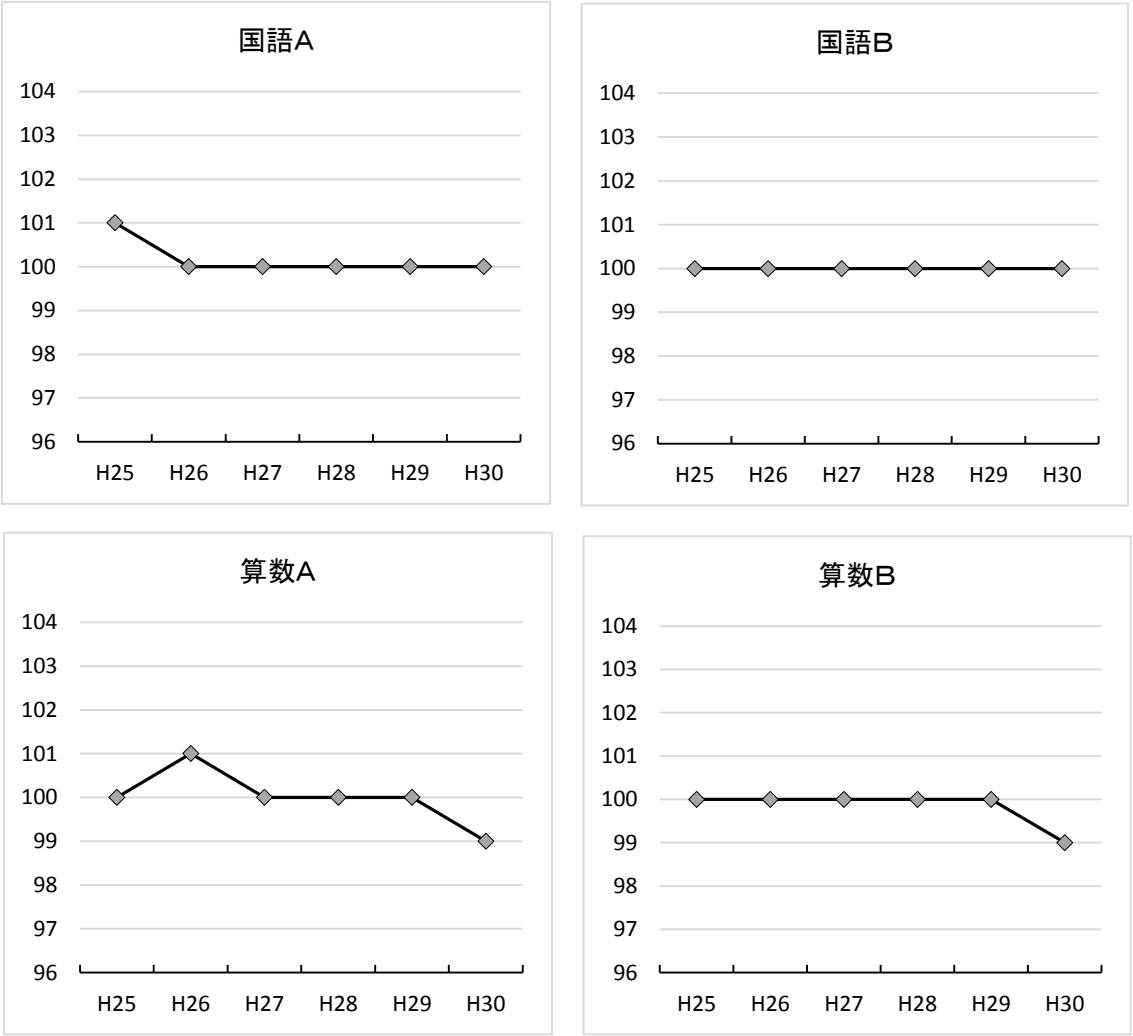
（３）過去６回（平成 25 年度～平成 30 年度）の調査結果の経年変化と分析

① 小学校の経年変化（標準化得点※）と分析

※標準化得点･･･各年度の調査は問題が異なることから，平均正答率による単純な比較ができないため，年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう，各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ 100 となるように標準化した得点。例えば，小学校算数Ｂの長野県の平均正答率をみると，平成 29 年度は 46，平成 30 年度は 50 で，単純に比較すると上がっているが，全国の平均正答率は平成 29 年度が 46，平成 30 年度が 52 であり，平均正答率や正答率の分布等を考慮した長野県の標準化得点は平成 29 年度は 100，平成 30 年度は 99 となり，１ポイント下がる。

ｉ）標準化得点

〔グラフⅡ-11〕　標準化得点の推移



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語の標準化得点は，平成 26 年度以降，100 で推移している。（グラフⅡ-11）

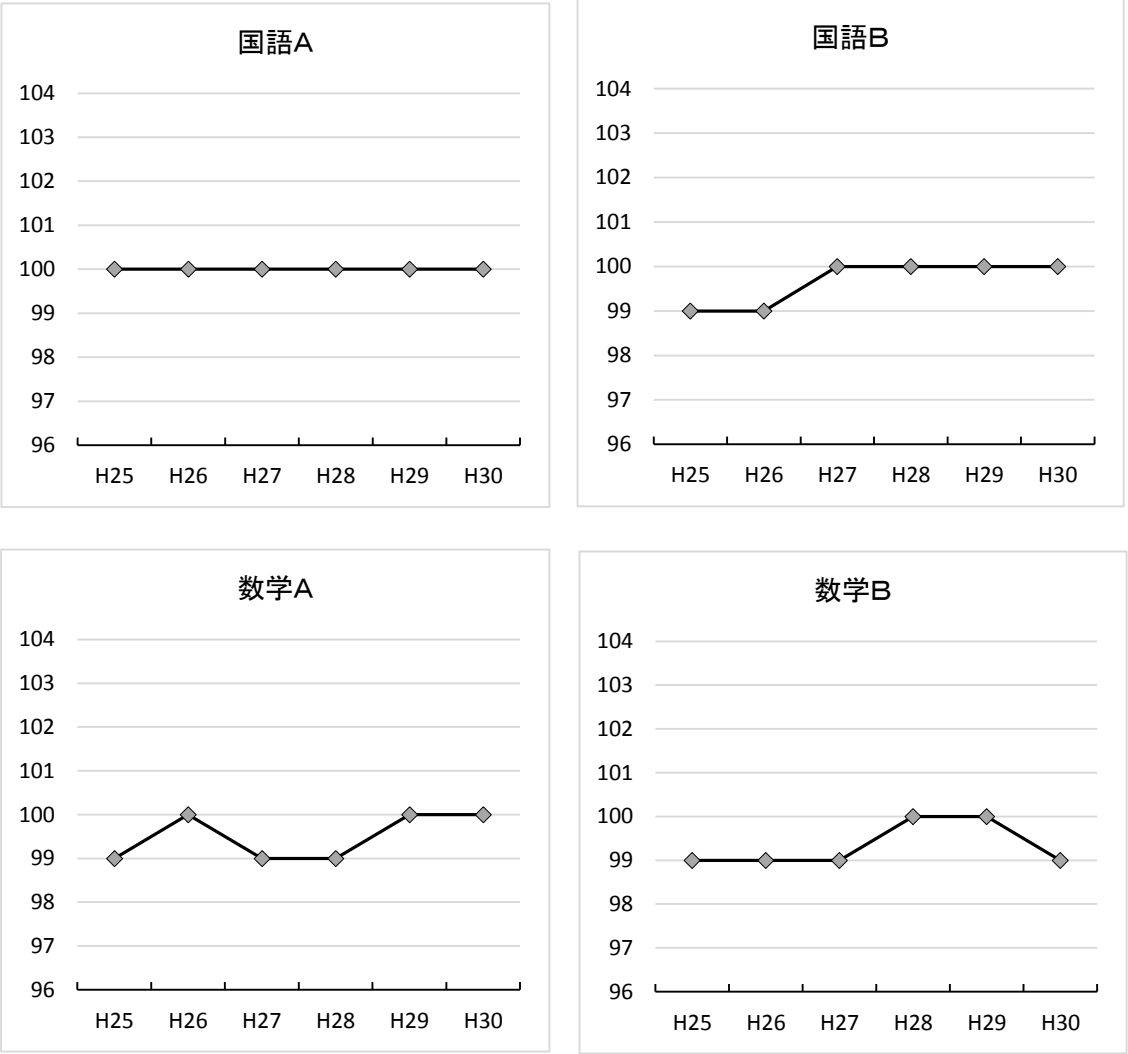
◆算数の標準化得点は，平成 27 年度以降，100 で推移していたが，今年度は 99 である。

（グラフⅡ-11）

② 中学校の経年変化（標準化得点）と分析

ｉ）標準化得点

〔グラフⅡ-12〕　標準化得点の推移



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語の標準化得点は，平成 27 年度以降，100 で推移している。（グラフⅡ-12）

◇数学Ａは，平成 29 年度に 100 となり，今年度も 100 である。（グラフⅡ-12）

◆数学Ｂは，平成 28 年度，29 年度は 100 であったが，今年度は 99 である。（グラフⅡ-12）

（４）過去５回（平成 26 年度～平成 30 年度）の調査結果の経年変化と分析

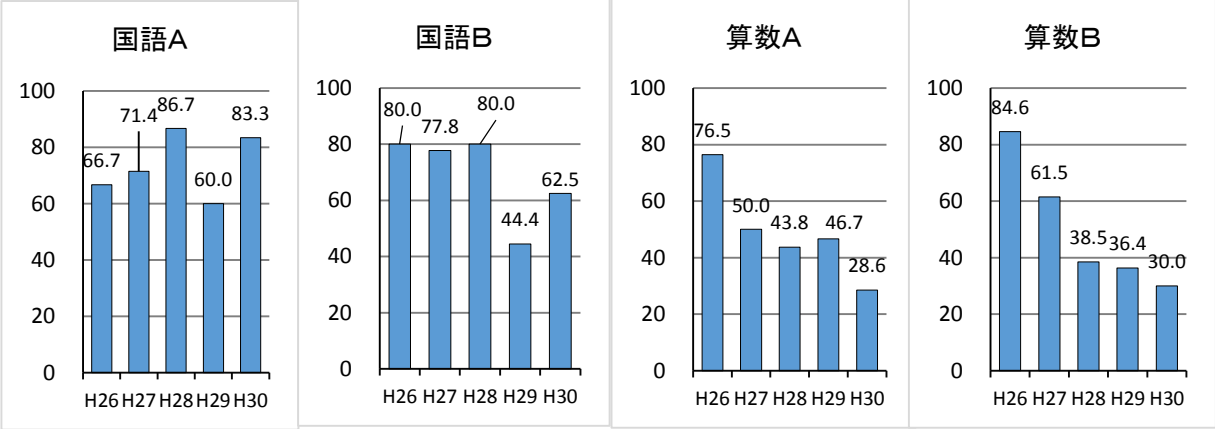
① 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

ｉ）全国の平均正答率を上回った設問と無答率

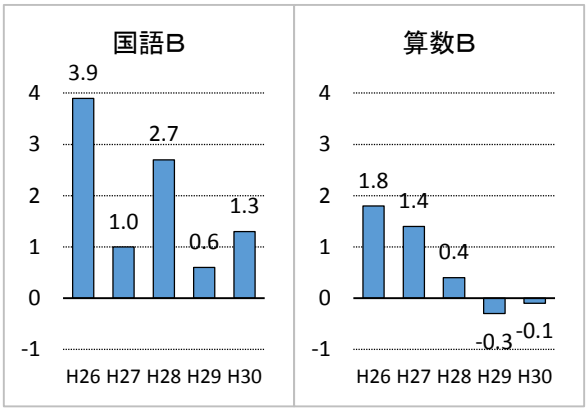
〔表Ⅱ－５〕　本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ
平成 26 年度	10／15	8／10	13／17	11／13
平成 27 年度	10／14	7／9	8／16	8／13
平成 28 年度	13／15	8／10	7／16	5／13
平成 29 年度	9／15	4／9	7／15	4／11
平成 30 年度	10／12	5／8	4／14	3／10

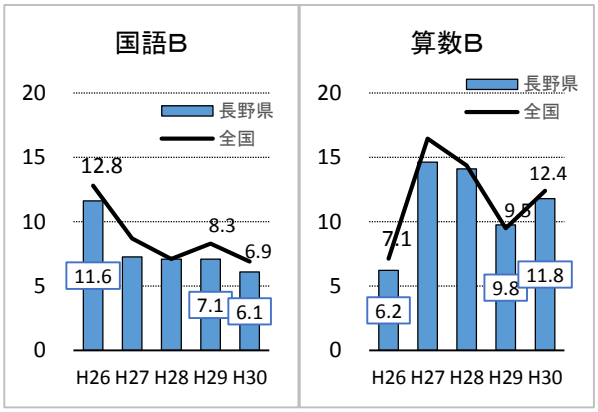
〔グラフⅡ-13〕　本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（%）



〔グラフⅡ-14〕記述問題の全国平均正答率との差（%）



〔グラフⅡ-15〕記述問題における無答率の平均（%）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語Ａ，Ｂの，全国の平均正答率を上回った設問の割合は，昨年度より上昇した。（グラフⅡ-13）

◇国語Ｂ，算数Ｂの記述問題の正答率の全国平均正答率との差は，昨年度よりはやや改善されている。（グラフⅡ-14）

◇国語Ｂ，算数Ｂとも，記述問題の無答率は全国平均を下回った。（グラフⅡ-15）

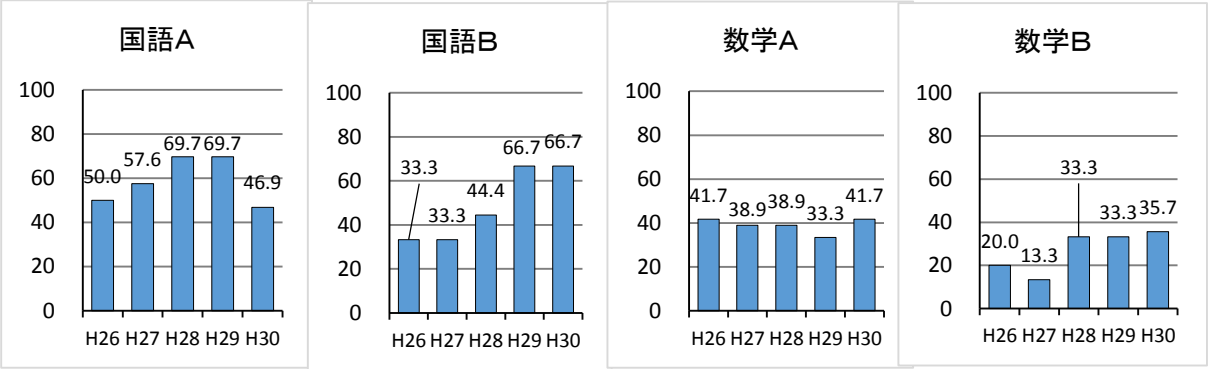
② 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無答率）と分析

ｉ）全国の平均正答率を上回った設問と無答率

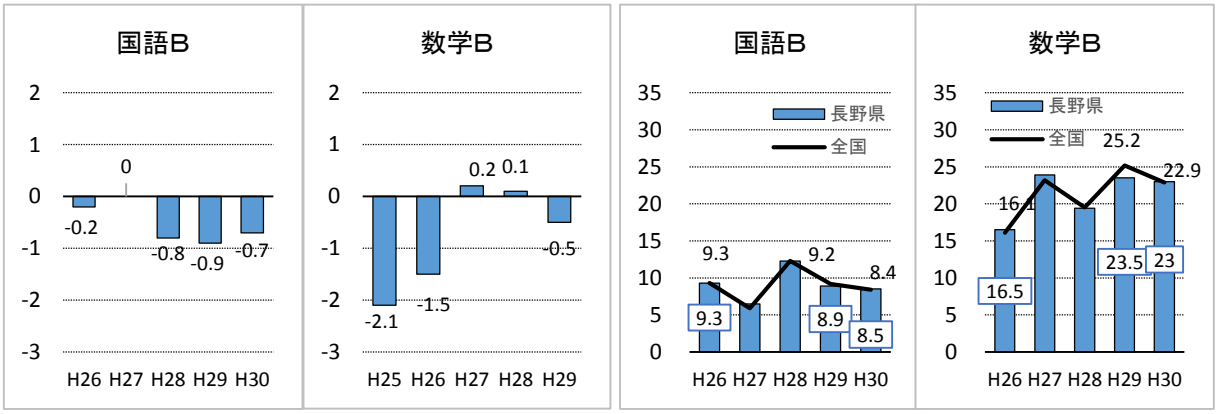
〔表Ⅱ－６〕　本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数

	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ
平成 26 年度	16／32	３／９	15／36	３／15
平成 27 年度	19／33	３／９	14／36	２／15
平成 28 年度	23／33	４／９	14／36	５／15
平成 29 年度	23／32	６／９	12／36	５／15
平成 30 年度	15／32	６／９	15／36	５／14

〔グラフⅡ-16〕　本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（%）



〔グラフⅡ-17〕　記述問題の全国平均正答率との差（%）　〔グラフⅡ-18〕記述問題における無答率の平均（%）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇数学Ａでは，全国の平均正答率を上回った設問の割合が昨年度より増加した。（グラフⅡ-16）

◆国語Ａでは，全国の平均正答率を上回った設問の割合が昨年度より減少した。（グラフⅡ-16）

◆国語Ｂ，数学Ｂともに，本年度は記述問題の正答率は全国の平均正答率より低い。（グラフⅡ-17）

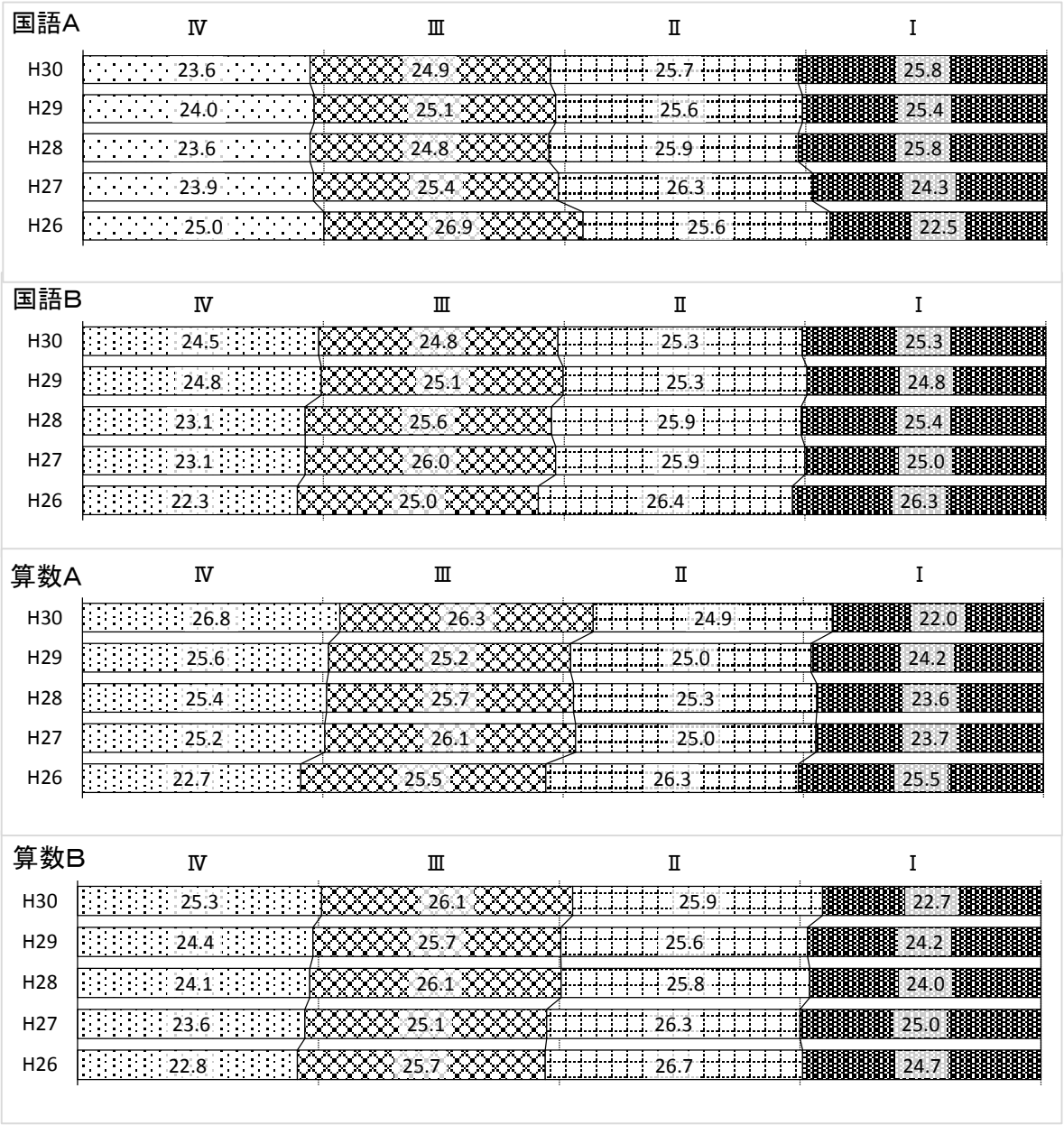
◆国語Ｂ，数学Ｂともに，記述問題における無答率の平均は，全国を上回った。（グラフⅡ-18）

③ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

ｉ）分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ，上位から 25％ずつ４分割(境界を含む階級の度数を按分することで，４等分となるよう補正)し，それぞれの区分をⅠ（上位 25％以内），Ⅱ（25％～50％），Ⅲ（50％～75％），Ⅳ（75％～100％）とした上で，各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-19〕　分布に着目した経年の状況



ⅱ）　分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語は，昨年度と比べるとＡ，ＢともにⅠ層が増加し，Ⅳ層が減少したことから，上位の層の割合が高くなり，下位の層の割合が低くなっていることがわかる。（グラフⅡ-19）

◇国語は，Ａ，ＢともにⅠ層が 25％を上回り，Ⅳ層は 25％を下回った。（グラフⅡ-19）

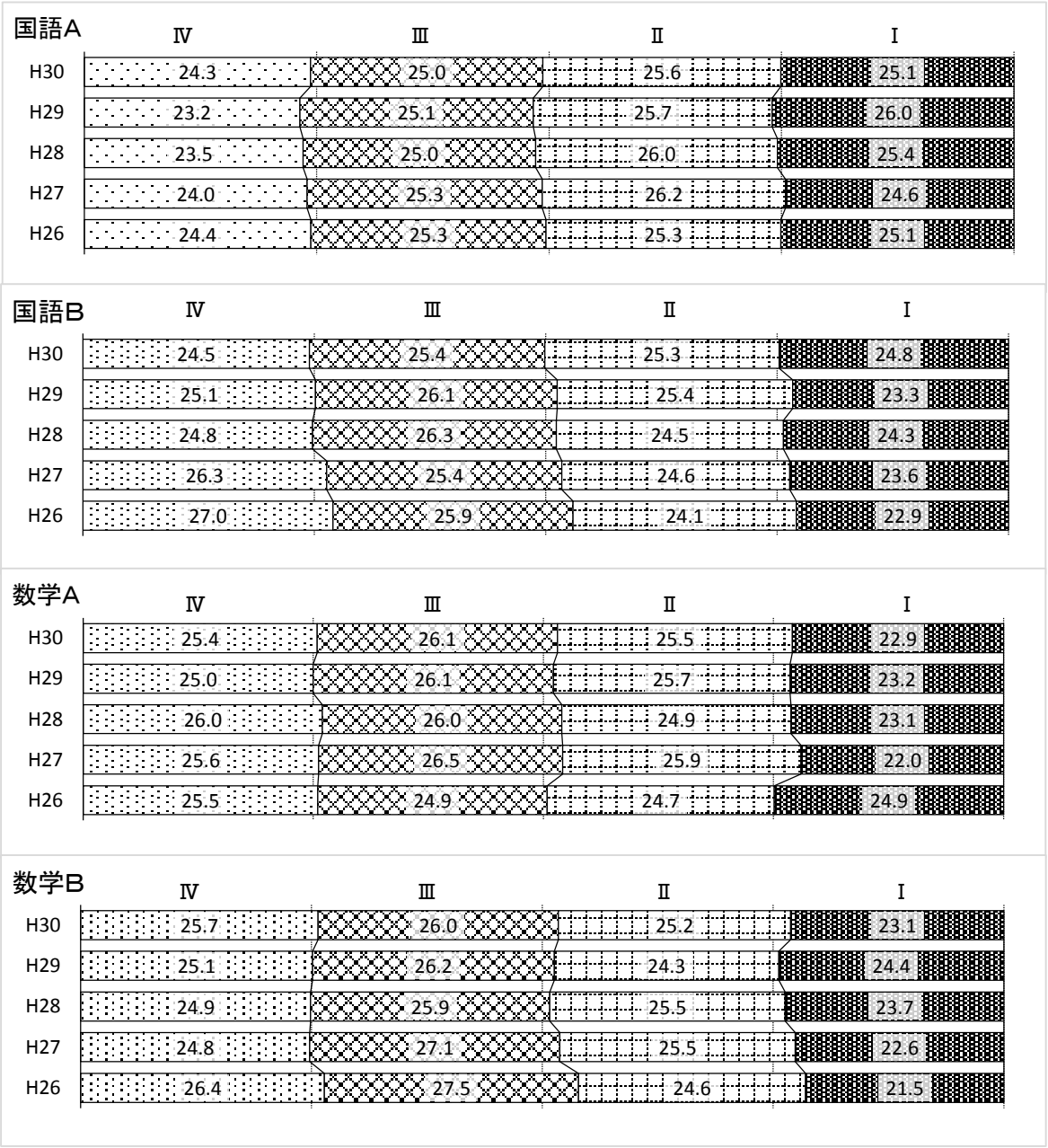
◆算数は，Ａ，ＢともにⅠ層の割合が昨年度よりも大幅に減少したことから，上位の層の割合が低くなっていることがわかる。（グラフⅡ-19）

◆算数は，Ａ，ＢともにⅣ層が 25％を上回っている。（グラフⅡ-19）

④ 中学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

ｉ）分布に着目した経年の状況

〔グラフⅡ-20〕　分布に着目した経年の状況



ⅱ）　分析　　◇：成果　◆：課題

◇国語Ｂは，昨年度と比べるとⅠ層が増加し，Ⅳ層が減少したことから，上位の層の割合が高くなり，下位の層の割合が低くなっていることがわかる。（グラフⅡ-20）

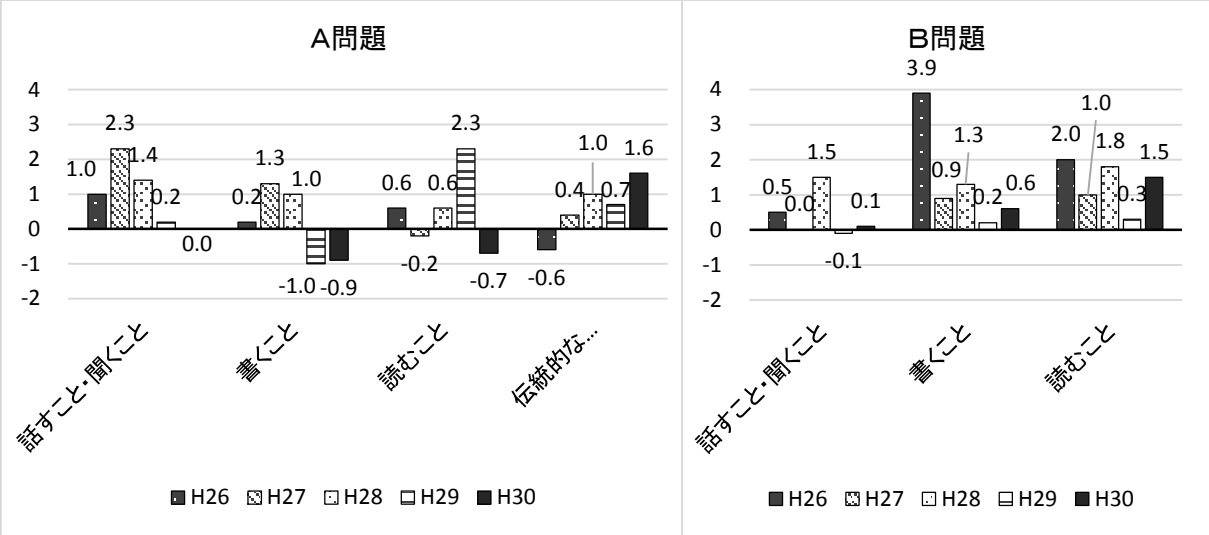
◆国語Ａと数学Ａ，Ｂは，Ⅰ層が昨年度よりも減少し，Ⅳ層が増加したことから，上位の層の割合が低くなり，下位の層の割合が高くなっていることがわかる。（グラフⅡ-20）

⑤ 小学校国語の経年変化と分析

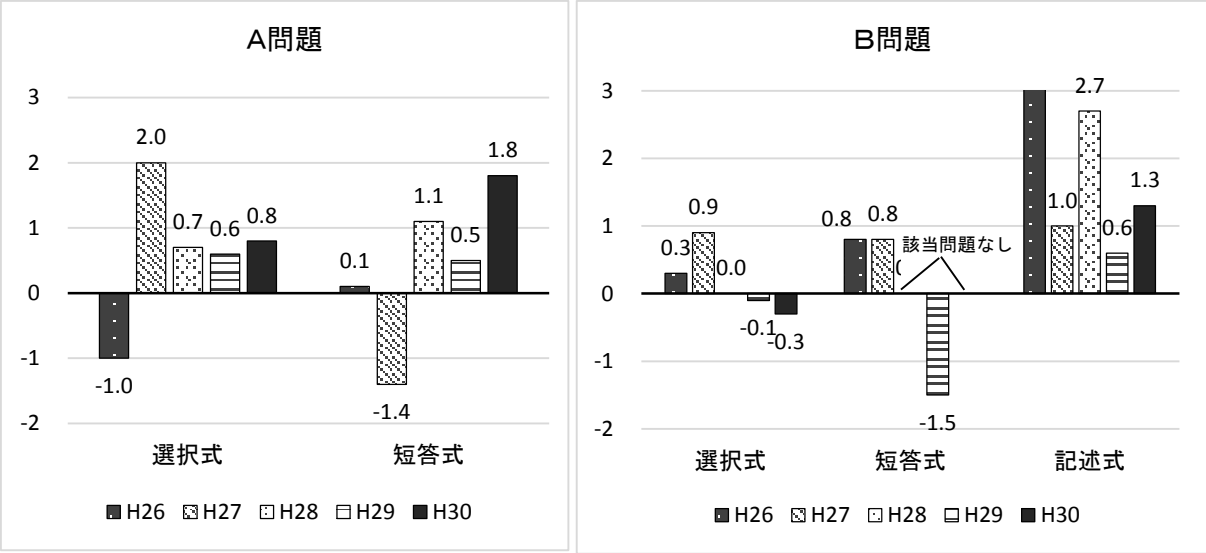
ｉ）領域，問題形式ごとの経年変化の状況

平成 26 年度から今年度までの領域と問題形式ごとの正答率について，全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-21〕　領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



〔グラフⅡ-22〕　問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇A問題では，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の平均正答率の全国との差が向上した。（グラフⅡ-21）

◇B問題では，いずれの領域においても，平均正答率の全国との差が向上した。（グラフⅡ-21）

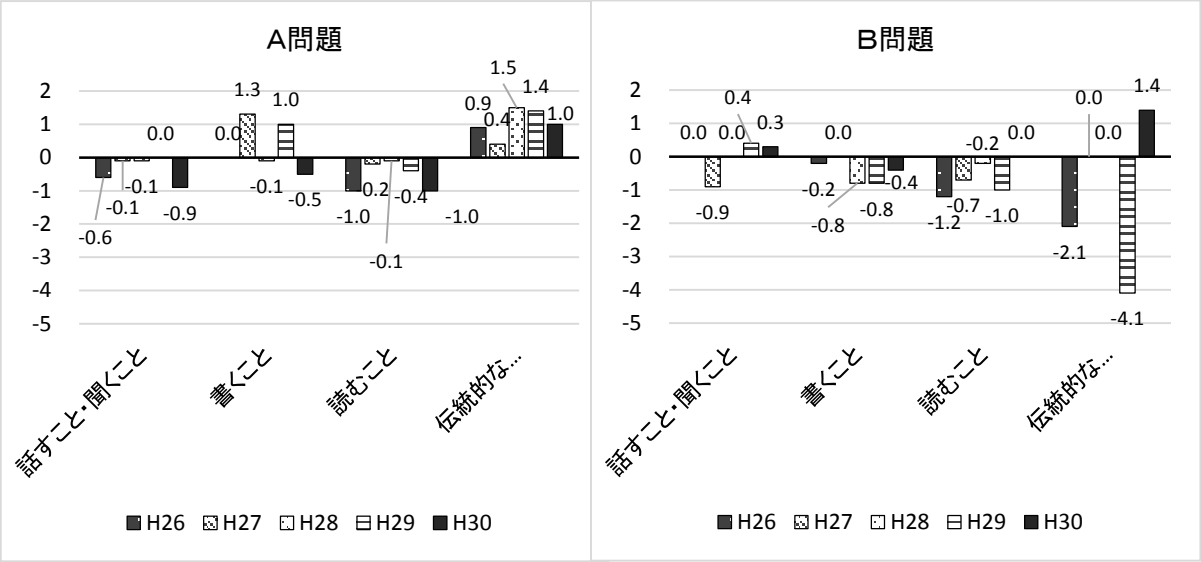
◆A問題では，書くことと読むことについて，全国平均を下回った。（グラフⅡ-21）

⑥ 中学校国語の経年変化と分析

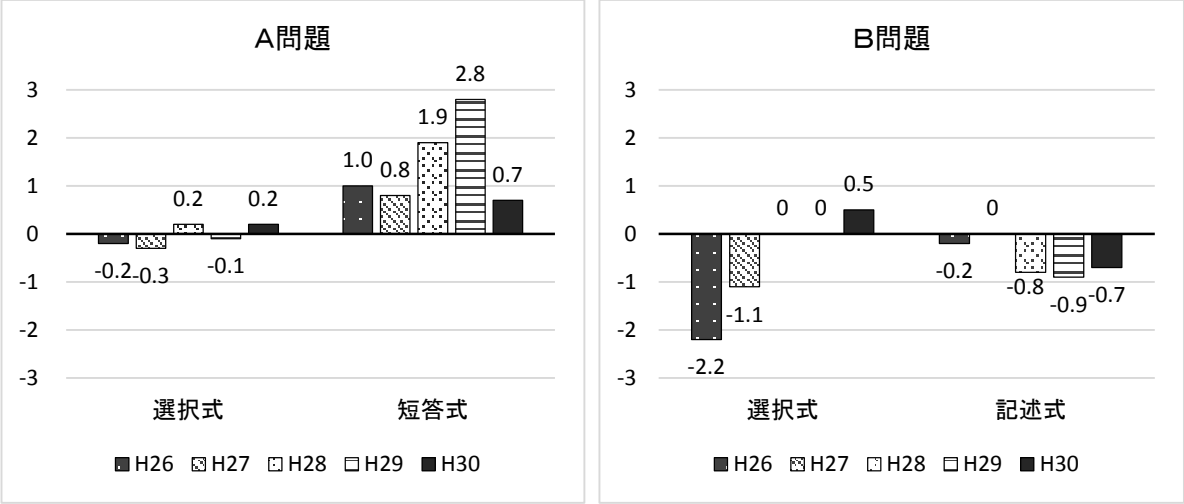
ｉ）領域，問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に，中学校国語についても領域と問題形式ごとの正答率について，全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-23〕　領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



〔グラフⅡ-24〕　問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇Ｂ問題では，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の平均正答率の全国との差が向上し，全国平均を上回った。（グラフⅡ-23）

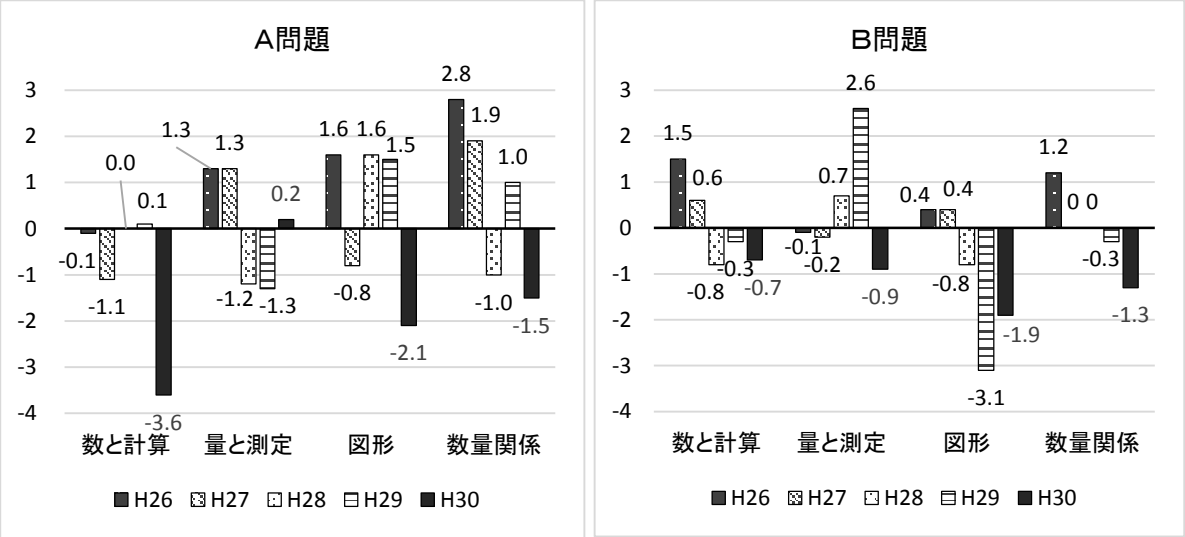
◆Ａ問題では，いずれの領域においても，平均正答率の全国との差が下降しており，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項以外の領域では全国を下回った。（グラフⅡ-23）

⑦ 小学校算数の経年変化と分析

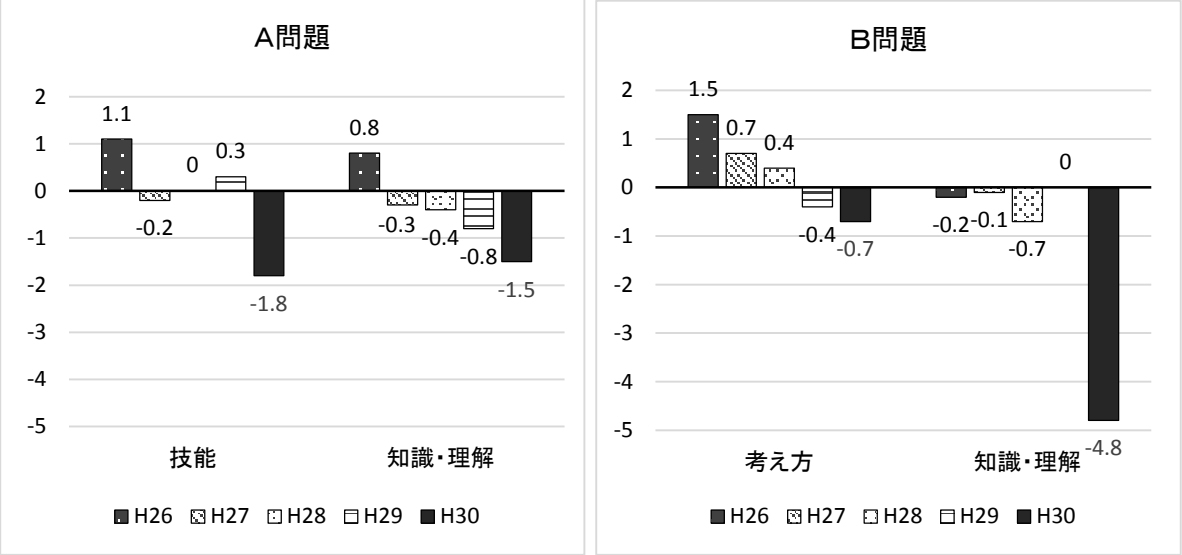
ｉ）領域，観点ごとの経年変化の状況

領域と観点ごとの正答率について，全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-25〕　領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



〔グラフⅡ-26〕　観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



ⅱ）分析　　◆：課題

◇Ａ問題では，量と測定の領域で改善がみられ，全国の平均正答率を上回った。（グラフⅡ-25）

◆Ａ問題では，数と計算，図形，数量関係の領域で昨年度から大きく数値が下降している。（グラフⅡ-25）

◆Ｂ問題では，全ての領域で全国平均を下回った。（グラフⅡ-25）

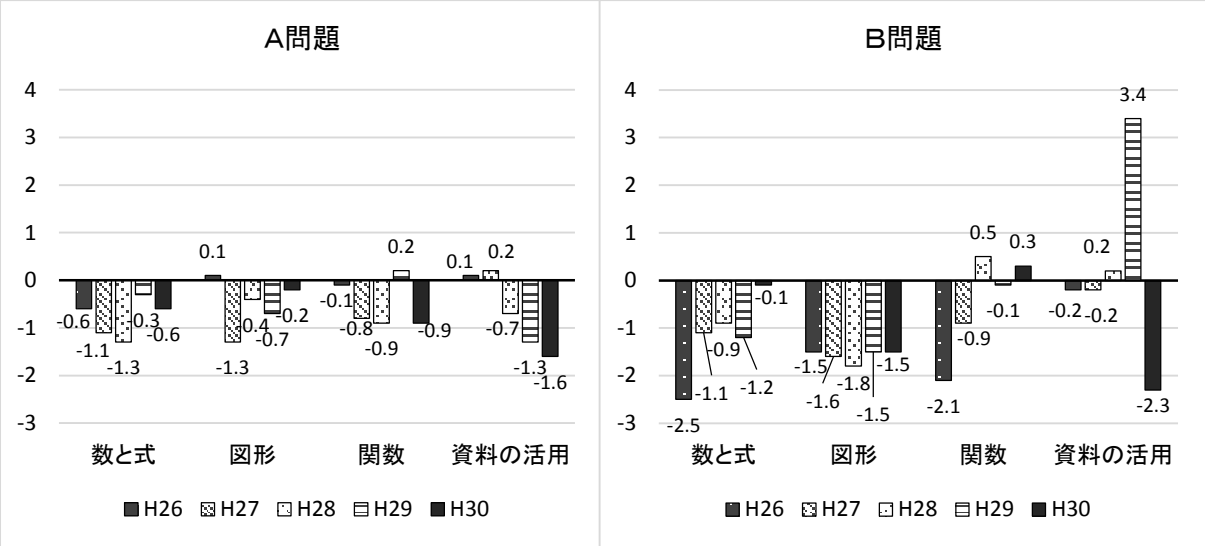
◆Ａ問題，Ｂ問題とも，いずれの観点においても全国の平均正答率を下回った。特に，Ｂ問題の知識・理解は約５ポイント下回った。（グラフⅡ-26）

⑧ 中学校数学の経年変化と分析

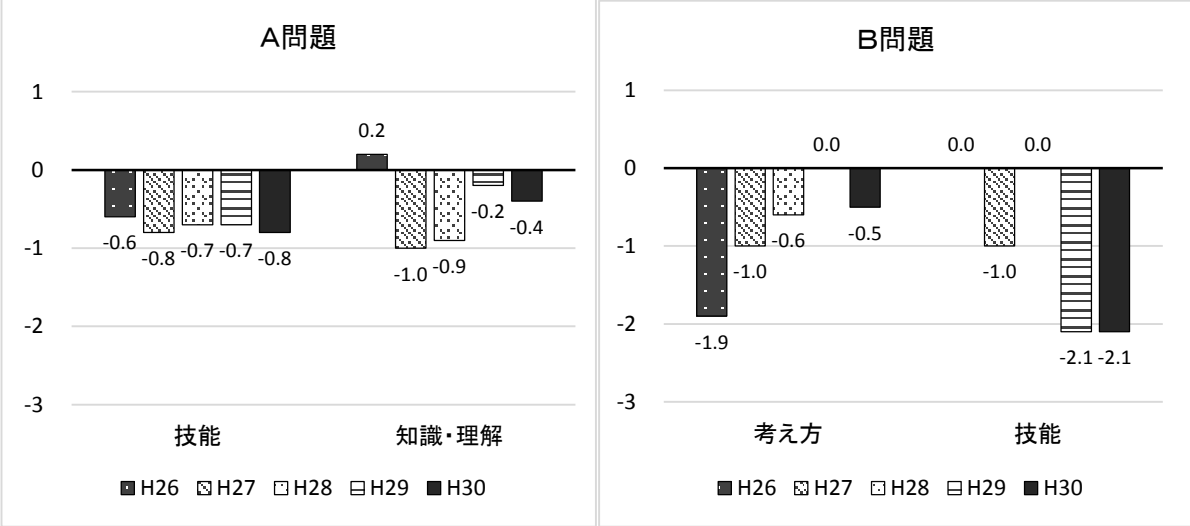
ｉ）領域，観点ごとの経年変化の状況

算数と同様に，数学についても領域と観点ごとの正答率について，全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-27〕　領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



〔グラフⅡ-28〕　観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



ⅱ）分析　　◇：成果　◆：課題

◇Ｂ問題では，数と式，関数領域でやや改善の傾向がみえる。（グラフⅡ-27）

◆Ａ問題では，全ての領域で全国の平均正答率を下回った。（グラフⅡ-27）

◆Ａ問題，Ｂ問題ともに，すべての観点で，全国の平均正答率を下回った。（グラフⅡ-28）

２　質問紙調査の結果と分析

（１）平成 30 年度質問紙調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問紙調査と，学校（教師）を対象とする質問紙調査の項目を分類（※1）し，それぞれを［児童生徒］７領域，［学校運営］７領域に整理し，領域ごとに全国を 100 としてスコア化（※2）した。

［児童生徒］７領域，［学校運営］７領域は次のとおりである。

［児童生徒］７領域

・学習に対する関心・意欲・態度
- ✓ 算数･数学への関心等
- ✓ 理科への関心等
- ✓ 地域･社会への関心等

・自己及び社会に対する認識
- ✓ 規範意識
- ✓ 自尊感情

・学習の基盤となる活動・習慣
- ✓ 生活習慣
- ✓ 学習習慣

［学校運営］７領域

・教科指導
- ✓ 個に応じた指導
- ✓ 算数･数学科の指導法
- ✓ 理科の指導法

・学力向上
- ✓ 学力向上に向けた取組･指導方法
- ✓ 家庭学習

・学校経営
- ✓ 地域の人材･施設の活用
- ✓ 教員研修･教職員の取組

※１：各領域に対応する質問項目は，文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に準ずる。

※２：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し，領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして事務局でスコアを算出した。

① 小学校調査

ｉ）結果

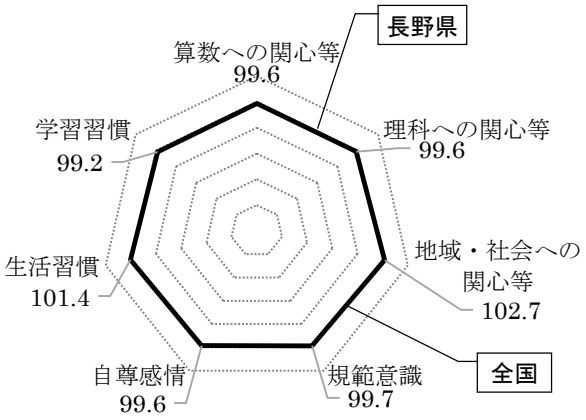
〔表Ⅱ－７〕　［児童］のスコア（小学校）

領域名		スコア
学習に対する関心・意欲・態度	算数への関心等	99.6
	理科への関心等	99.6
	地域・社会への関心等	102.7
自己及び社会に対する認識	規範意識	99.7
	自尊感情	99.6
学習の基盤となる活動・習慣	生活習慣	101.4
	学習習慣	99.2

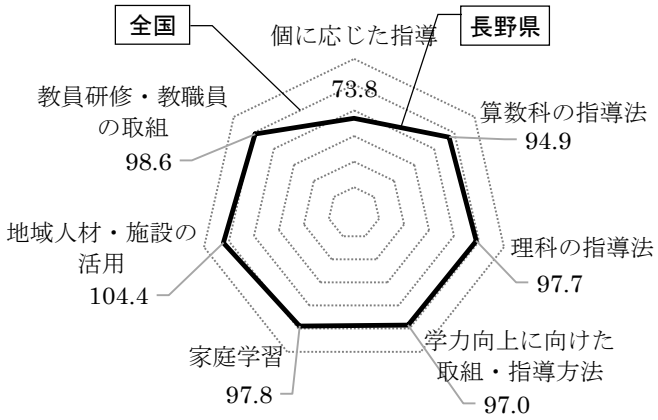
〔表Ⅱ－８〕　［学校運営］のスコア（小学校）

領域名		スコア
教科指導	個に応じた指導	73.8
	算数科の指導法	94.9
	理科の指導法	97.7
学力向上	学力向上に向けた取組・指導方法	97.0
	家庭学習	97.8
学校経営	地域の人材・施設の活用	104.4
	教員研修・教職員の取組	98.6

〔グラフⅡ-29〕　［児童］のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-30〕　［学校運営］のスコア（小学校）



ⅱ）分析

◇：成果　◆：課題

◇［児童］のスコアは，いずれの領域においても概ね全国と同程度である。目立つものとして，地域・社会への関心が２ポイント以上，全国を上回っている。（**表Ⅱ－７**）

◇［学校運営］では，地域の人材・施設の活用で全国平均を約４ポイント上回っている。（**表Ⅱ－８**）

◆［学校運営］では，教科指導の領域における３項目とも全国を下回っている。特に個に応じた指導は全国を 26 ポイント以上下回っている。（**表Ⅱ－８**）

② 中学校調査

ｉ）結果

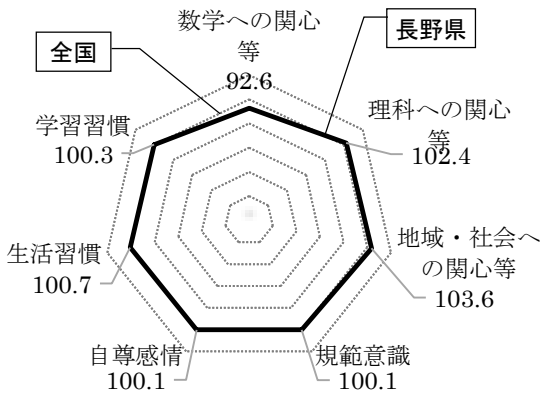
〔表Ⅱ－９〕　［生徒］のスコア（中学校）

領域名		スコア
学習に対する関心・意欲・態度	数学への関心等	92.6
	理科への関心等	102.4
	地域・社会への関心等	103.6
自己及び社会に対する認識	規範意識	100.1
	自尊感情	100.1
学習の基盤となる活動・習慣	生活習慣	100.7
	学習習慣	100.3

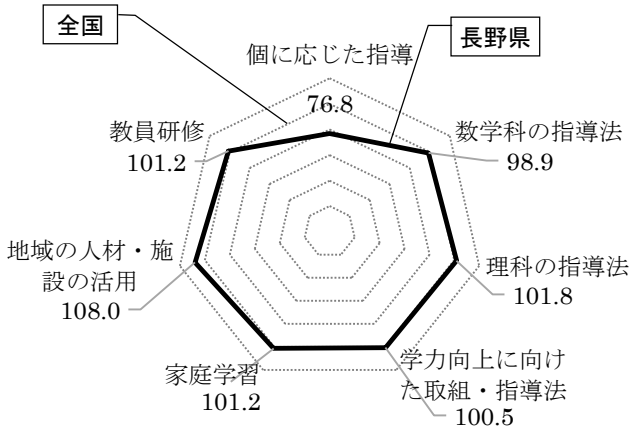
〔表Ⅱ-10〕　［学校運営］のスコア（中学校）

領域名		スコア
教科指導	個に応じた指導	76.8
	数学科の指導法	98.9
	理科の指導法	101.8
学力向上	学力向上に向けた取組・指導方法	100.5
	家庭学習	101.2
学校経営	地域の人材・施設の活用	108.0
	教員研修・教職員の取組	101.2

〔グラフⅡ-31〕　［生徒］のスコア（中学校）



〔グラフⅡ-32〕　［学校運営］のスコア（中学校）



ⅱ）分析

◇：成果　　◆：課題

◇［生徒］のスコアは，数学への関心を除いた項目では全国と同程度または全国を上回っている。（表Ⅱ－９）

◇［学校運営］の家庭学習，地域人材・施設の活用は全国平均を８ポイントほど上回っている。（表Ⅱ-10）

◆［生徒］では，数学への関心等のスコアが，全国平均と比べて約 7 ポイント下回っている。（表Ⅱ－９）

◆［学校運営］では，個に応じた指導でのスコアが，全国より約 23 ポイント下回っている。（表Ⅱ-10）

（２）過去５回（平成 26 年度～平成 30 年度）の調査結果の経年変化と分析

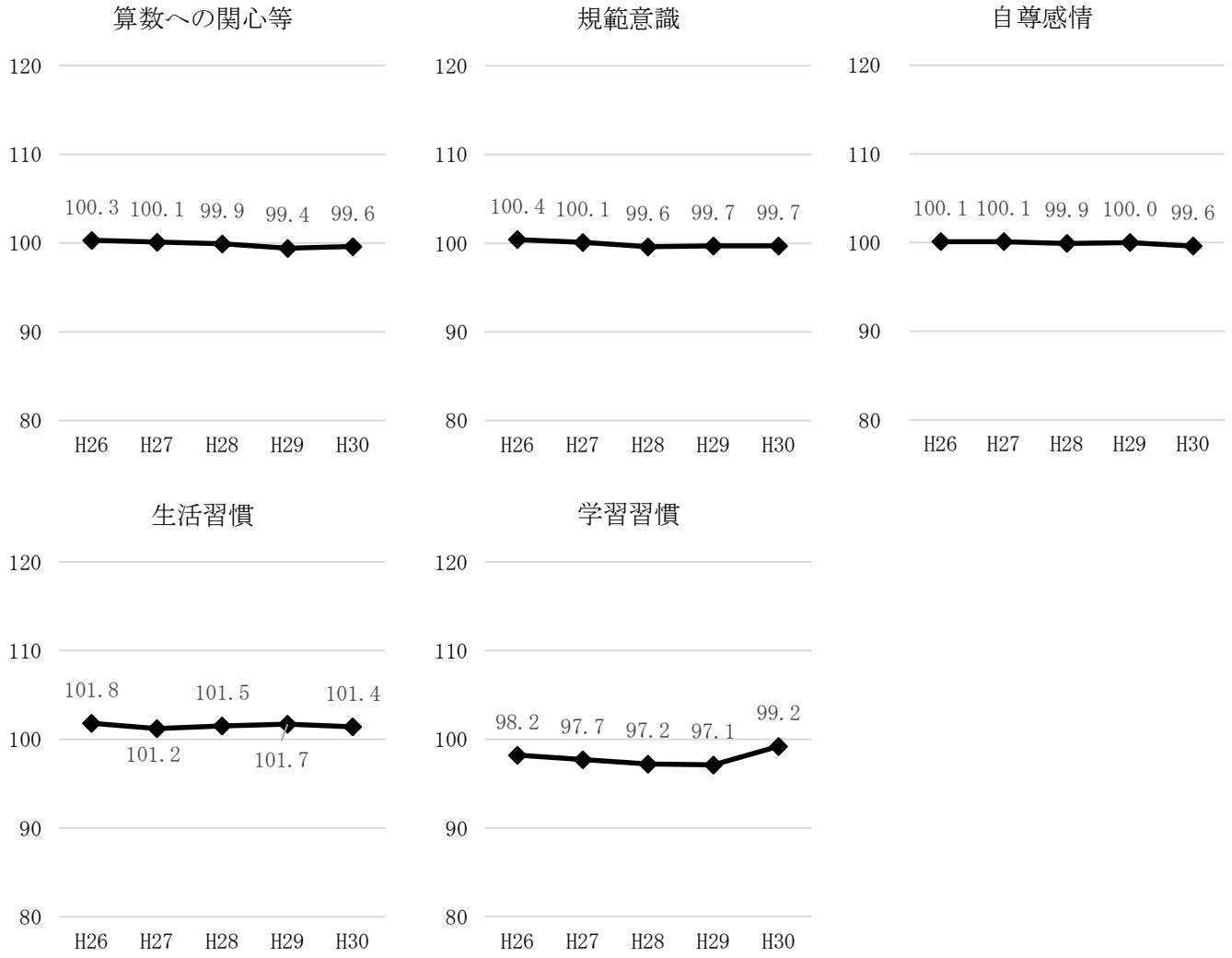
① 小学校調査

ｉ）経年変化

〔表Ⅱ-11〕　［児童］のスコアの経年変化

領域名		H26	H27	H28	H29	H30
学習に対する関心･意欲･態度	国語への関心等	100.8	100.4	100.1	100.5	
	算数への関心等	100.3	100.1	99.9	99.4	99.6
	総合的な学習の時間への関心等	98.0	97.1	99.2	96.3	
自己及び社会に対する認識	規範意識	100.4	100.1	99.6	99.7	99.7
	自尊感情	100.1	100.1	99.9	100.0	99.6
学習の基盤となる活動･習慣	言語活動・読解力	98.6	99.7	99.3	99.4	
	生活習慣	101.8	101.2	101.5	101.7	101.4
	学習習慣	98.2	97.7	97.2	97.1	99.2

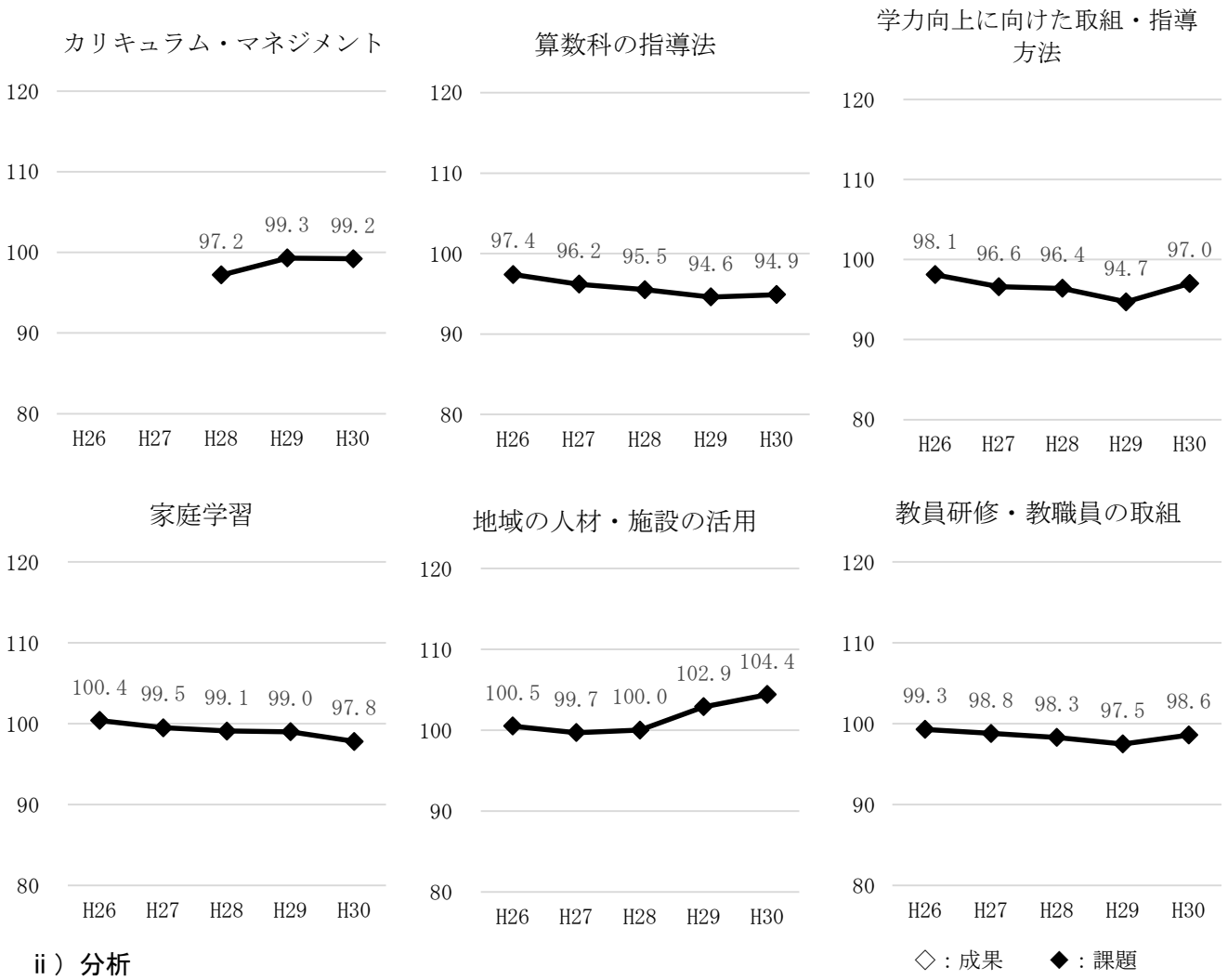
〔グラフⅡ-33〕［児童］のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕　［学校運営］のスコアの経年変化

領域名		H26	H27	H28	H29	H30
教科指導	カリキュラム・マネジメント			97.2	99.3	99.2
	国語科の指導法	99.0	97.5	96.8	96.6	
	算数科の指導法	97.4	96.2	95.5	94.6	95.4
学力向上	児童の状況	101.6	100.5	99.1	99.2	
	学力向上に向けた取組・指導方法	98.1	96.6	96.4	94.7	97.0
	家庭学習	100.4	99.5	99.1	99.0	97.8
学校経営	地域の人材・施設の活用	100.5	99.7	100.0	102.9	104.4
	教員研修・教職員の取組	99.3	98.8	98.3	97.5	98.6

〔グラフⅡ-34〕［学校運営］のスコアの経年変化



ⅱ）分析

◇［児童］の学習習慣では，下降傾向が見られたが，本年度はスコアの上昇が見られた。（表Ⅱ-11）

◇［学校運営］の家庭学習以外の項目で，スコアの上昇が見られる。地域の人材・施設の活用では３年間スコアの上昇が続いている。（表Ⅱ-12）

◆［学校運営］の家庭学習では，スコアの下降傾向が見られる。（表Ⅱ-12）

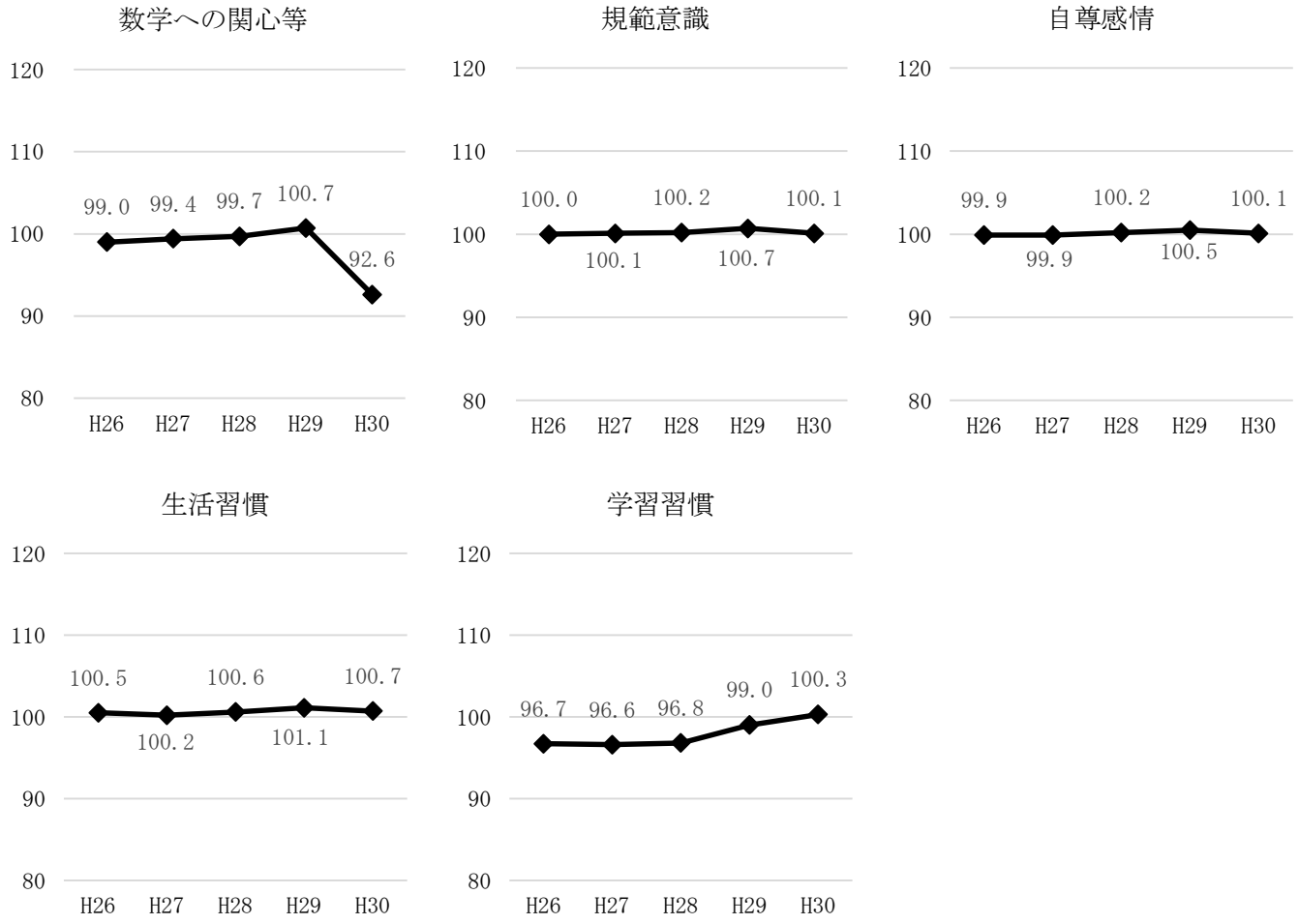
② 中学校調査

ｉ）経年変化

〔表Ⅱ-13〕　［生徒］のスコアの経年変化

領域名		H26	H27	H28	H29	H30
学習に対する関心･意欲･態度	国語への関心等	99.5	99.6	99.7	100.9	
	数学への関心等	99.0	99.4	99.7	100.7	92.6
	総合的な学習の時間への関心等	96.0	96.3	96.4	96.1	
自己及び社会に対する認識	規範意識	100.0	100.1	100.2	100.7	100.1
	自尊感情	99.9	99.9	100.2	100.5	100.1
学習の基盤となる活動･習慣	言語活動・読解力	99.1	100.1	99.8	99.2	
	生活習慣	100.5	100.2	100.6	101.1	100.7
	学習習慣	96.7	96.6	96.8	99.0	100.3

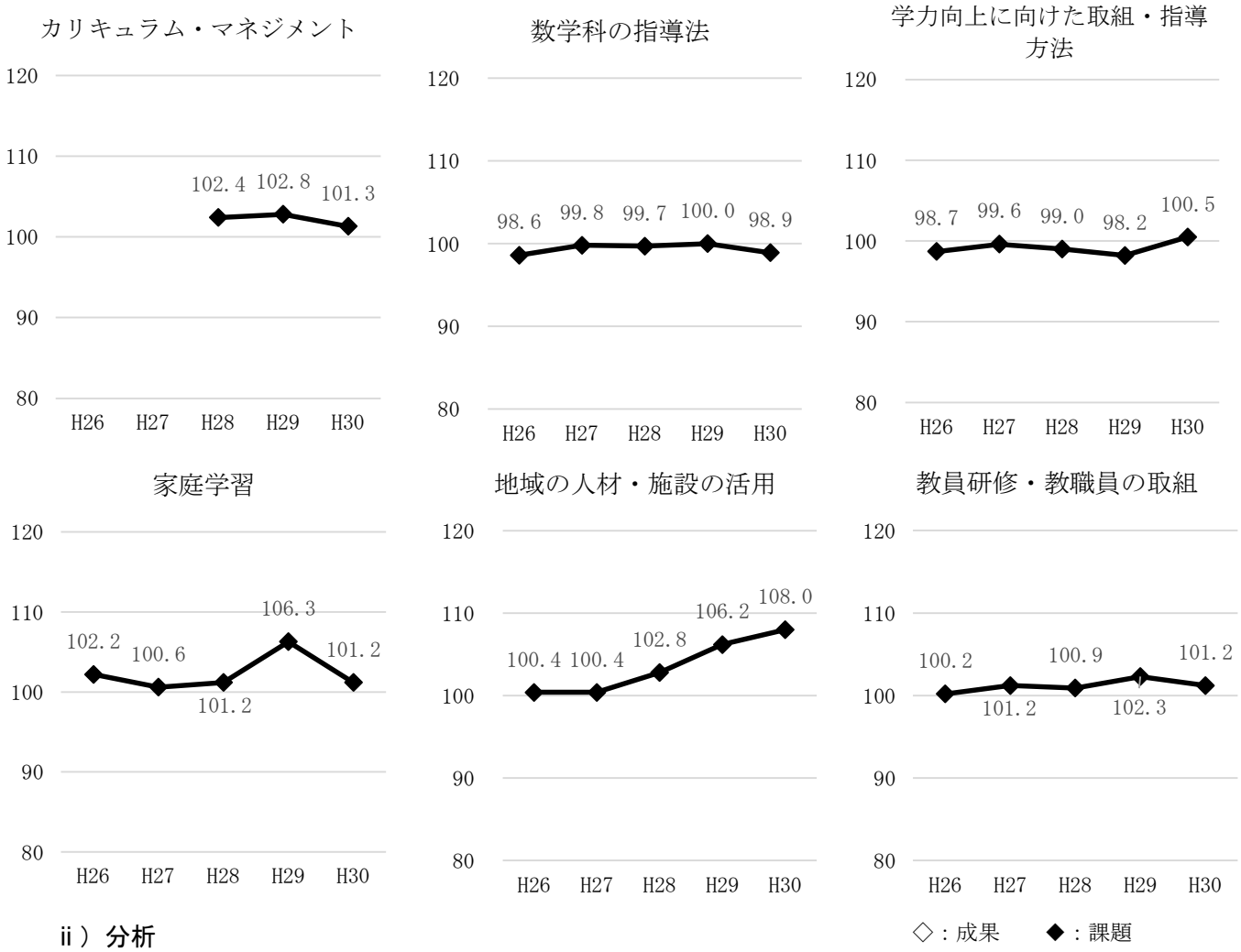
〔グラフⅡ-35〕［生徒］のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-14〕　［学校運営］のスコアの経年変化

領域名		H26	H27	H28	H29	H30
教科指導	カリキュラム・マネジメント			102.4	102.8	101.3
	国語科の指導法	98.5	99.3	99.5	100.4	
	数学科の指導法	98.6	99.8	99.7	100.0	98.9
学力向上	生徒の状況	101.2	101.2	101.4	101.3	
	学力向上に向けた取組・指導方法	98.7	99.6	99.0	98.2	100.5
	家庭学習	102.2	100.6	101.2	106.3	101.2
学校経営	地域の人材・施設の活用	100.4	100.4	102.8	106.2	108.0
	教員研修・教職員の取組	100.2	101.2	100.9	102.3	101.2

〔グラフⅡ-36〕［学校運営］のスコアの経年変



◇：成果　◆：課題

ⅱ）分析

◇［生徒］の学習習慣においては，スコアの上昇傾向が見られる。(表Ⅱ-13)

◇［学校運営］の地域の人材・施設の活用のスコアは上昇傾向が見られる。(表Ⅱ-14)

◆［生徒］の数学への関心等のスコアは，昨年度まで緩やかな上昇傾向を見せていたが，本年度大きく下降した。(表Ⅱ-13)

◆［学校運営］の家庭学習のスコアは，昨年度より 5.1 ポイント下降した。(表Ⅱ-14)

◆［学校運営］の数学科の指導方法のスコアは，昨年度より 1.1 ポイント下降した。(表Ⅱ-14)

Ⅲ　全国の分析との比較

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は，国立教育政策研究所のウェブページに掲載されている。このうち，「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について」で取り上げられている項目について，長野県の結果をまとめた。ただし，三重クロス分析（就学援助率別の平均正答率）については，本県における「調査対象学年の児童・生徒のうち，就学援助を受けている児童・生徒の割合」が 30%以上の学校数が少なく，該当の児童生徒数も少ない（小学校 11 校 212 名，中学校 5 校(82 名)）ため，分析から外してある。

（全国の結果は，　http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/18summary.pdf　を参照）

○　調査概要

（１）調査日時：平成 30 年 4 月 17 日（火）

（２）調査事項：①児童生徒に対する調査：国語，算数・数学，理科及び質問紙調査
②学校に対する質問紙調査

（３）調査対象及び集計対象児童生徒・学校数：

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
	４月 17 日に調査を実施した児童数	４月 17 日に調査を実施した学校数	４月 17 日に調査を実施した生徒数	４月 17 日に調査を実施した学校数
長野県（公立）	17,849 人	362 校	17,521 人	189 校
全国（公立）	1,030,031 人	19,386 校	967,196 人	9,597 校

※調査を実施した児童生徒数は，回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

（４）教科の調査結果
長野県（公立）の平均正答率・数

	小学校					中学校				
	国語Ａ	国語Ｂ	算数Ａ	算数Ｂ	理科	国語Ａ	国語Ｂ	数学Ａ	数学Ｂ	理科
H30 全　国	70.9% 8.5 /12 問	54.8% 4.4 /8 問	63.7% 8.9 /14 問	51.7% 5.2 /10 問	60.4% 9.7 /16 問	76.4% 24.4 /32 問	61.7% 5.6 /9 問	66.6% 24.0 /36 問	47.6% 6.7 /14 問	66.5% 17.9 /27 問
H30 長野県	72% 8.6 /12 問	55% 4.4 /8 問	62% 8.7 /14 問	50% 5.0 /10 問	61% 9.8 /16 問	76% 24.5 /32 問	61% 5.5 /9 問	65% 23.6 /36 問	46% 6.4 /14 問	66% 17.9 /27 問
H29 長野県	75% 11.3 /15 問	57% 5.2 /9 問	78% 11.8 /15 問	46% 5.0 /11 問	61.3% 14.7 /24 問	78% 25.0 /32 問	72% 6.5 /9 問	64% 23.1 /36 問	48% 7.2 /15 問	52.8% 13.2 /25 問

※　理科についての参考値は，前回（H27）のもの。

（５）今年度の変更点
・３年ぶりの理科実施
・調査結果提供の早期化

１　教科に関する調査結果

小学校国語

○慣用句の意味を理解し，使うことや，相手や目的に応じ，事例などを挙げながら筋道を立てて話すことや，文の中で正しく漢字を使うことについてはできている。
●主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書くことに課題がある。
●目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書くことに課題がある。

□日常生活で使われている慣用句の意味を理解し，使うことはできている。

［慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する設問　【Ａ６】91.3%（全国比　＋0.9）］

□相手や目的に応じ，自分が伝えたいことについて，事例などを挙げながら筋道を立てて話すことについてはできている。

［図書館への行き方の説明として適切なものを選択する設問　【Ａ１】90.8%（全国比　±０）］

□学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことはできている。

［文の中で漢字を使う設問　【Ａ８しょう毒】83.1%（全国比　＋0.9）］

■文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書くことに課題がある。

［【春休みの出来事の一部】の中で，…部と一部とのつながりが合っていない文を選択し，正しく書き直す設問　【Ａ５】37.3%（全国比　＋1.8）］

■目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書くことに課題がある。

［【おすすめする文章】の［　　］に，むし歯を防ぐ効果について，【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く設問　【Ｂ２二】13.5%（全国比　±0）］

（注）□…「できている」と考えられるもの
■…「課題がある」と考えられるもの

中学校国語

○慣用句の意味を理解したり，語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えたり，古典の現代語訳についてはできている。
○質問の意図を捉えたり，必要に応じて質問したりすることはできている。
●文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。
●目的に応じて文章を読む際などに，内容を的確に捉え整理して書くことに課題がある。

□慣用句の意味を理解することはできている。

［「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する設問　【Ａ８四１】95.1%（全国比　＋0.4）］

□語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えることはできている。

［場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する設問　【Ａ７一】88.2%（全国比　＋0.9）］

□古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることはできている。

［『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す設問　【Ａ８六１】91.9%（全国比　＋0.8）］

□質問の意図を捉えたり，話の展開に注意して聞き，必要に応じて質問したりすることはできている。

［二人の質問の意図として適切なものを選択する設問　【Ｂ２一】87.5%（全国比　＋0.7）
二人に続いてする質問を書く設問　【Ｂ２二】86.9%（全国比　－1.4）］

■目的に応じて文の成分の順序や照応，構成を考えて適切な文を書くことに課題がある。

［「心を打たれた。」を文末に用いた一文を，主語を明らかにし，「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く設問　【Ａ８四２】18.1%（全国比　－4.2）］

■目的に応じて文章を読み，内容を整理して書くことに課題がある。

［「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く設問　【Ｂ１三】11.2%（全国比　－2.1）］

小学校算数

○図形の基礎となる「角」の概念は，知識として定着している。
○二つの異なる量を比較するときに，どちらか一方の量をそろえれば比較できることについて理解できている。
●小数の除法の意味理解や，円周率の意味理解に課題がある。
●複数の観点で示された情報とグラフを関連づけて解釈し表現することや,グラフの特徴を理解し，複数のグラフから読み取ることができることを適切に判断することに課題がある。

□180°の角の大きさは知識として定着している。

［角㋒の角の大きさが，何度であるかを選ぶ設問　【Ａ５(1)】95.4%（全国比 ＋1.0）］

□異種の二つの量のうち，一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方については理解している。

［面積がそろっている㋐と㋑の二つのシートの混み具合について，正しいものを選ぶ設問　【Ａ４(1)】89.3%（全国比 ＋1.5）］

■小数の除法の意味について理解することに課題がある。

［答えが 12÷0.8 の式で求められる問題を選ぶ設問　【Ａ２】38.0%（全国比 －1.9）］

■円周率の意味について理解することに課題がある。

［円周率を求める式として正しいものを選ぶ設問　【Ａ７(1)】38.5%（全国比 －3.1）］

■メモの情報とグラフを関連付け，総数や変化に着目していることを解釈し，それを記述することに課題がある。

［メモ１とメモ２は，それぞれ，グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く設問　【Ｂ３(1)】20.1%（全国比 －0.6）］

■棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを，適切に判断することに課題がある。

［一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ設問　【Ｂ３(2)】20.9%（全国比 －3.0）］

中学校数学

○単項式どうしの除法の計算はできている。
○平面図形の運動による空間図形の構成や，平面上に表された空間図形を読み取ることはできている。
●確率や一次関数の意味理解に課題がある。
●与えられた情報から必要な情報を選択し，的確に処理することに課題がある。
●成り立つ事柄を判断し，その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

□単項式どうしの除法の計算はできる。

［$6a^2b \div 3a$ を計算する設問　【Ａ２(2)】90.8%（全国比 －0.2）］

□球が回転体としてどのように構成されているかの理解はできている。

［半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く設問　【Ａ５(2)】85.8%（全国比 ＋3.4）］

□見取図，投影図から空間図形を読み取ることはできている。

［与えられた円柱の見取図から，その円柱の投影図を選ぶ設問　【Ａ５(3)】84.4%（全国比 ＋0.7）］

■多数回の試行の結果から得られる確率の意味の理解に課題がある。

［１枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について，正しい記述を選ぶ設問　【Ａ15(1)】34.4%(全国比 －5.8）］

■一次関数の意味の理解に課題がある。

［歩いた道のりと，残りの道のりの関係について，正しい記述を選ぶ設問　【Ａ12】36.9%（全国比 ＋0.5）］

■与えられた情報から必要な情報を選択し，的確に処理することに課題がある。

［Ｓ社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く設問　【Ｂ５(1)】12.9%（全国比 －3.1）］

■里奈さんの計算を解釈し，数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

［通常料金をａとしたときの団体料金の 10 人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び，その理由を説明する設問　【Ｂ５(2)】11.1%（全国比 ＋0.7）］

小学校理科

○実験の結果を分析して考察したり，観察のための適切な方法を選択したりすることはできている。
●考察した内容を記述することに課題がある。
●結果を見通して実験を構想したり，実験結果を基により妥当な考えに改善しその内容を記述したりすることに課題がある。

□より妥当な考えをつくりだすために，２つの異なる方法の実験結果を分析して考察することは，できている。

［海水と水道水を区別するために，２つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ設問　【４(2)】91.2%（全国比 ＋1.8）］

□堆積作用について，科学的な言葉や概念は理解している。

［流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ設問　【２(1)】83.8%（全国比 ＋0.2）］

□安全に留意し，生物を愛護する態度をもった解決方法を構想することはできている。

［野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ設問　【１(1)】82.6%（全国比 ＋0.5）］

■より妥当な考え方をつくりだすために，実験結果を基に分析して考察し，その内容を記述することに課題がある。

［一度に流す水の量と棒の様子との関係から，大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び，選んだわけを書く設問
【２(3)】21.3%（全国比 ＋1.2）］

■電流の流れ方について，予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。

［回路を流れる電流の流れ方について，自分の考えと異なる他者の予想を基に，検流計の針の向きと目盛りを選ぶ設問　【３(2)】46.9%（全国比 －0.8）］

■実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し，その内容を記述することに課題がある。

［食塩水を熱したときの食塩の蒸発について，実験を通して導きだす結論を書く設問
【４(4)】35.3%（全国比 －0.6）］

中学校理科

○習得した知識・技能を活用して観察・実験の結果を分析して解釈することはできている。
●質量パーセント濃度に関する問題や，オームの法則を使う問題に課題がある。
●自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し，条件を制御して実験を計画することに課題がある。

□物質を原子の記号で表すことや，植物の蒸散を指摘することはできている。

［アルミニウムを原子の記号で表す設問
【８(1)】80.7%(全国比 －2.8)
水蒸気が植物から出る働きの名称を選択する設問
【９(1)】89.0%(全国比 ＋1.0）］

□習得した知識・技能を活用して，観察・実験の結果を分析して解釈することはできている。

［「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとは言えない」と考察した理由を選択する設問
【２(3)】81.0%（全国比 ＋0.3）
緊急地震速報を受け取ってからＳ波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を選択する設問
【７(2)】79.7%（全国比 ＋1.2）
豆電球と豆電球型の LED の点灯の様子と電力との関係を選択する設問　【６(3)】91.9%（全国比 ＋0.5）］

■特定の質量パーセント濃度における水溶液の溶質の質量と水の質量を求めることに課題がある。

［質量パーセント濃度が 3.0%の食塩水を選択する設問　【２(2)】47.4%（全国比 ＋0.5）］

■オームの法則を使って，抵抗の値を求めることに課題がある。

［オームの法則を使って，抵抗の値を求める設問
【６(2)】48.7%(全国比 －3.2）］

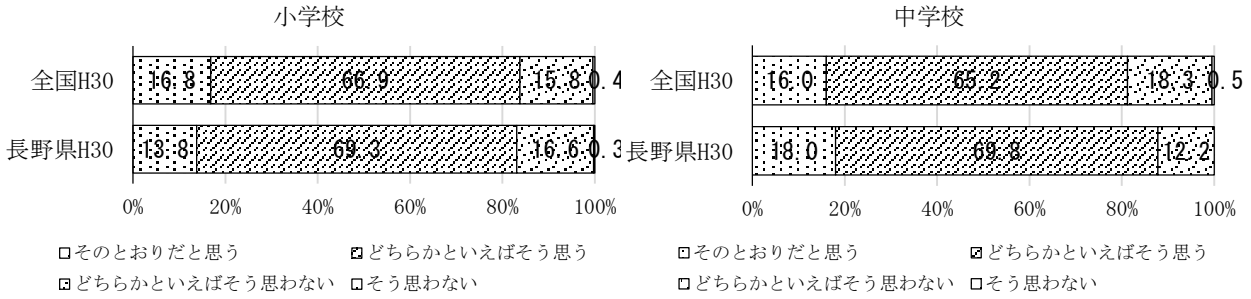
■自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し，条件を制御して実験を計画することに課題がある。

［炎の色と金網につくススの量を調べる実験において，変えない条件を記述する設問
【４(2)】41.4%（全国比 －2.7）
植物の蒸散以外で，容器中の湿度を上げる原因を記述する設問　【９(2)】20.2%（全国比 ＋0.8）］

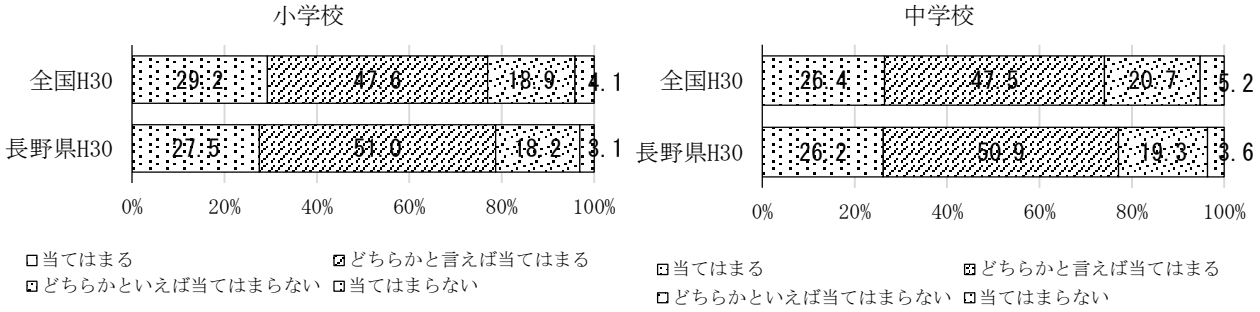
２　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○「授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から（進んで）取り組むことができていると思いますか」との質問（新規）に，肯定的に回答した小・中学校の割合は８割を超えており，肯定的に回答した児童生徒の割合は７割を超えている。また，この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が，平均正答率が高い傾向が見られた。

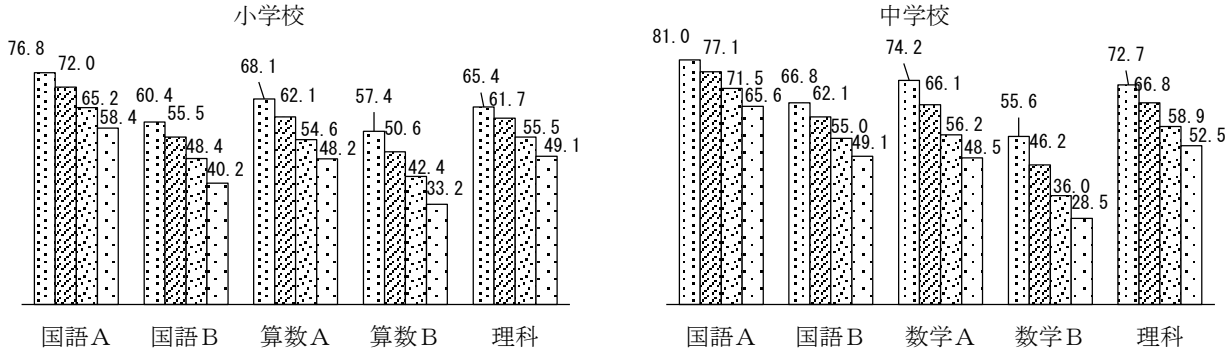
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒は，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組むことができていると思いますか。（新規）



【児童生徒質問紙】５年生まで（１，２年生のとき）に受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から進んで取り組んでいたと思いますか。（新規）

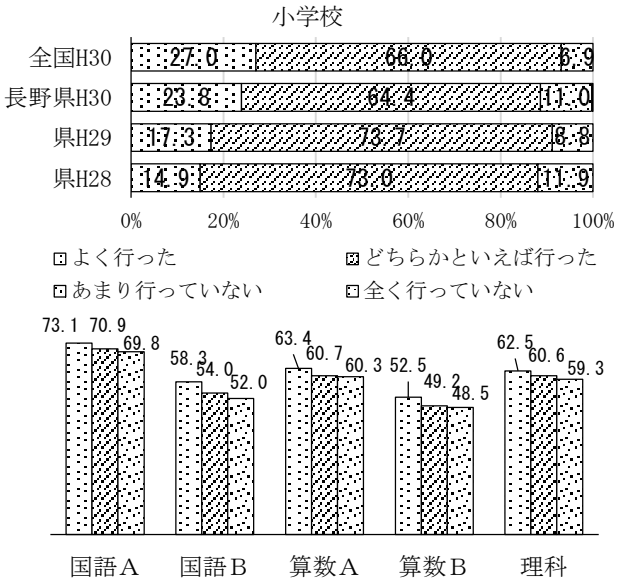


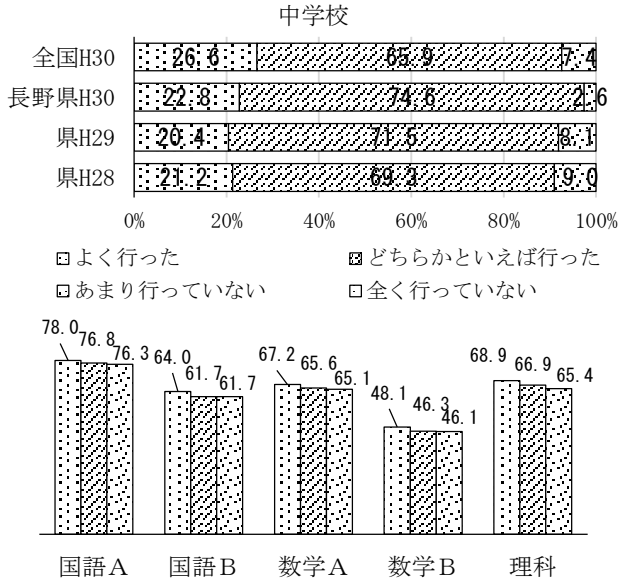
選択肢毎の平均正答率



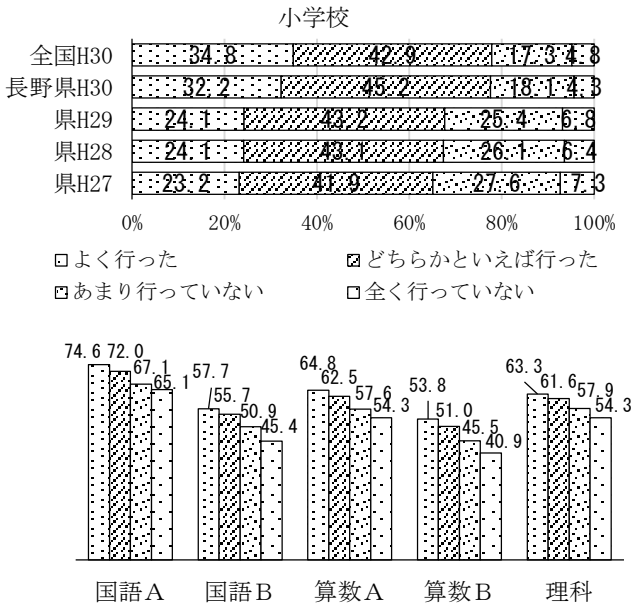
○「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」との質問に，肯定的に回答した小・中学校の割合は，平成 28 年度以降，８割を越えている。特に中学校では増加傾向が見られる。また，この質問に肯定的に回答した小・中学校の方が，平均正答率が高い傾向が見られた。
○「学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」との質問に，肯定的に回答した児童生徒の割合は，平成 29 年度と比べて増加しており，平成 30 年度は７割を越えている。また，この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が，平均正答率が高い傾向が見られた。

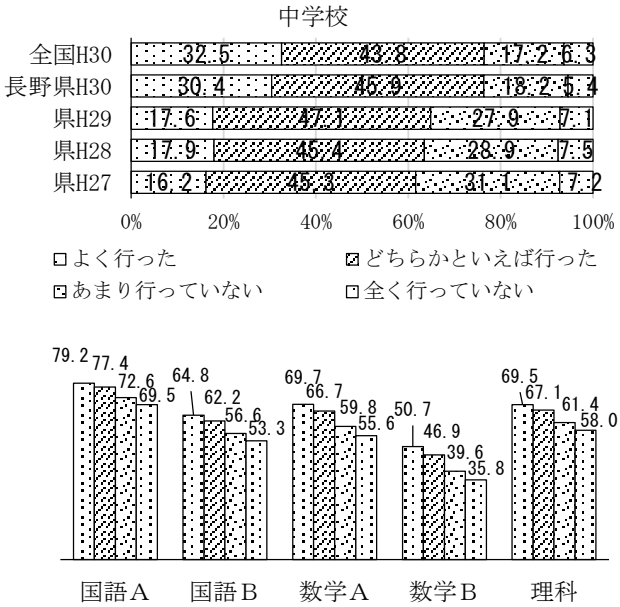
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。





【児童生徒質問用紙】学校の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか。

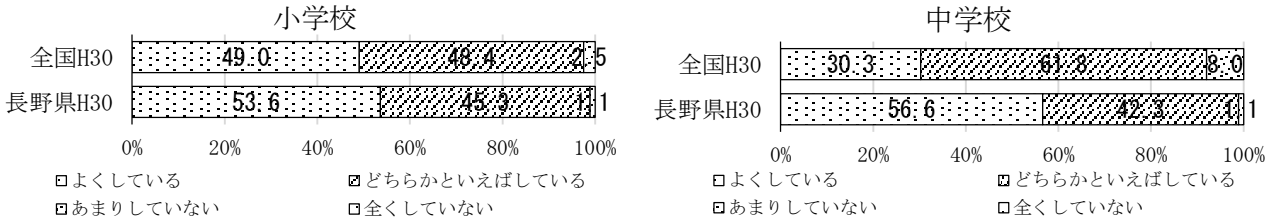




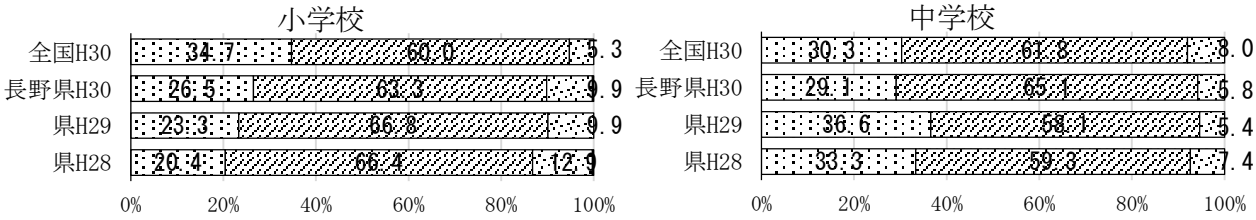
３　学校運営に関する取組状況

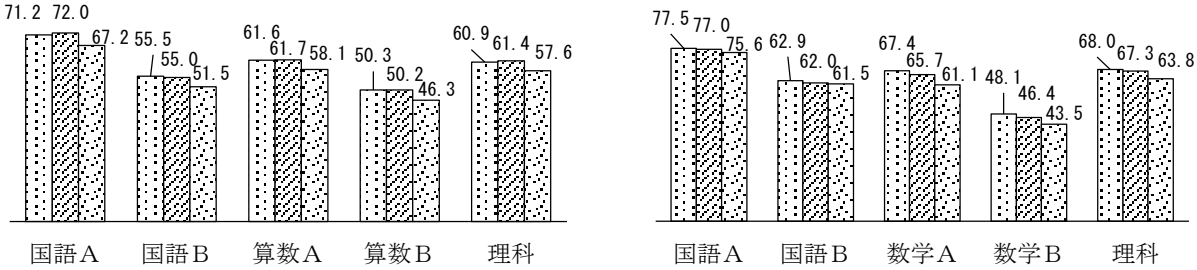
○「学校として業務改善に取り組んでいますか」との質問（新規）に，肯定的に回答した小・中学校の割合は，９割を越えている。
○「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか」との質問に，肯定的に回答した小・中学校の割合は，平成 28 年度以降８割を超えていることから，各学校においてＰＤＣＡサイクルは構築されていると判断できる。そこで，県で集約したデータに基づいた県の平均正答率に対して各学校の正答率を比較する分析から，領域や出題形式ごとに分析をするなど各学校で独自に分析して，指導の改善につなげるように促していく。

【学校質問紙】学校として業務改善に取り組んでいますか。（新規）

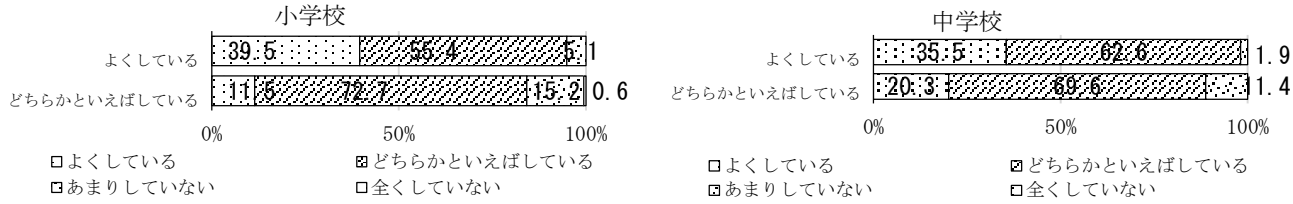


【学校質問紙】児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか。

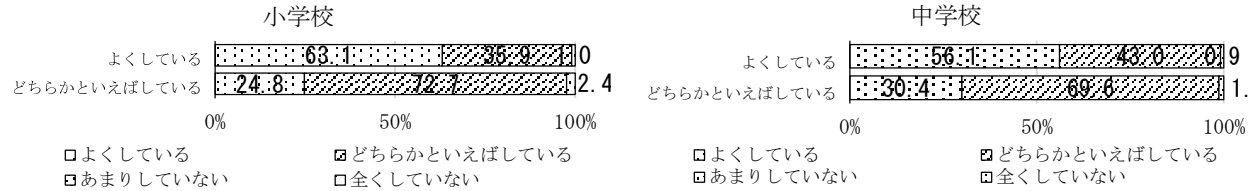




〔学〕「業務改善」×〔学〕「各種データ等に基づき教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立している。



〔学〕「業務改善」×（学）「学習指導と学習評価の計画の作成時，教職員同士が協力し合っている

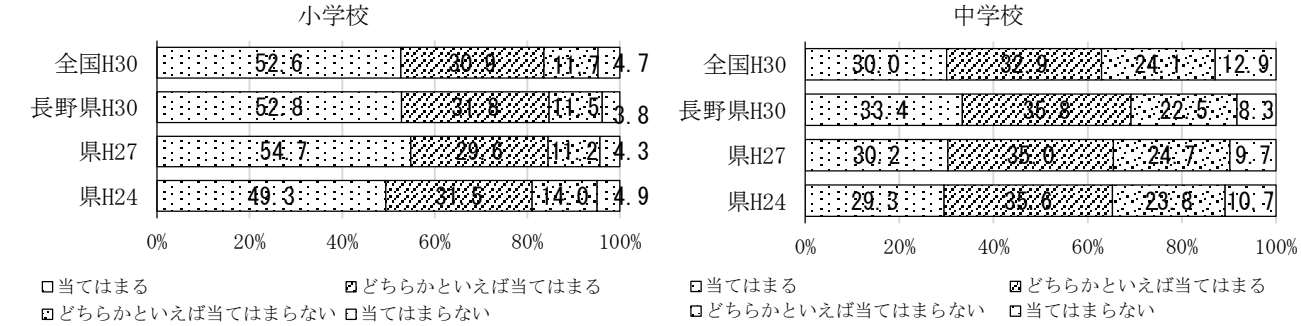


4　教科に関する状況　理科

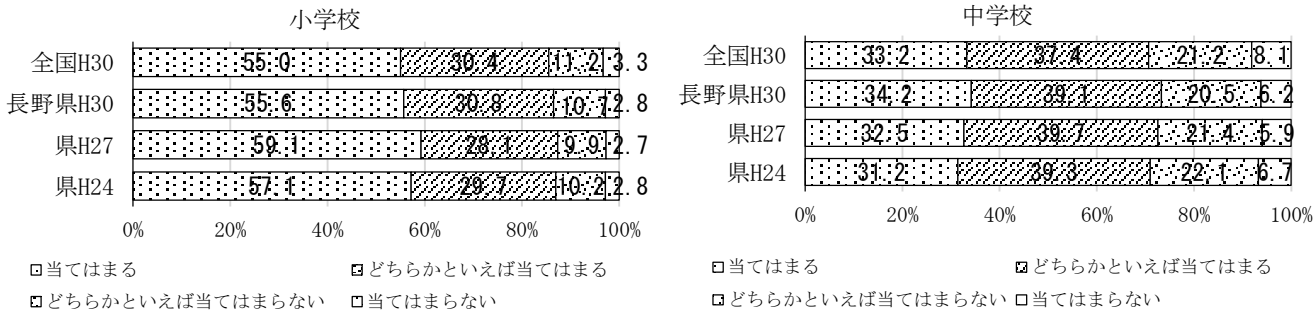
○理科に関する興味・関心，授業の理解度等についての一連の質問に，肯定的に回答した児童生徒の割合は，平成 24 年度，平成 27 年度に比べて，若干の増加，または，ほぼ横ばいの傾向が見られる。
○「理科の勉強は大切だと思いますか」「理科の授業の内容はよく分かりますか」との質問に，肯定的に回答した児童の割合は８割，生徒の割合は７割を超える。
○「理科の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に，肯定的に回答した児童の割合は７割を越え，生徒の割合は平成 24 年度以降，増加傾向が見られるものの，６割を下回っている。

■児童・生徒の興味・関心，授業の理解度等

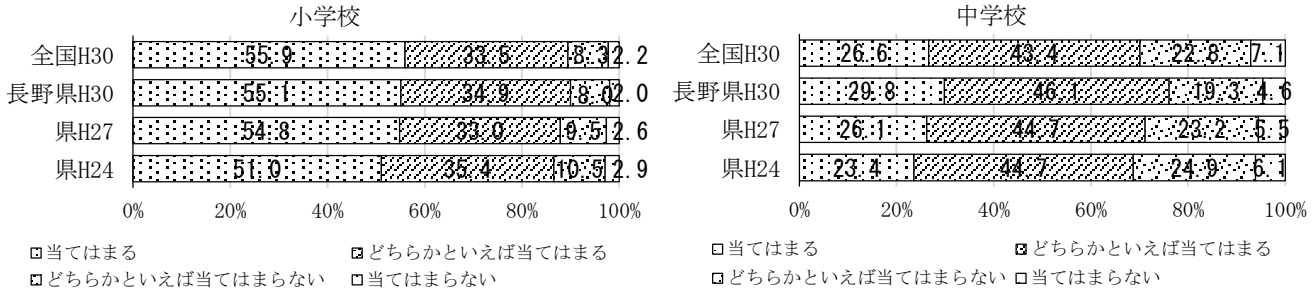
【児童生徒質問紙】理科の勉強は好きですか。



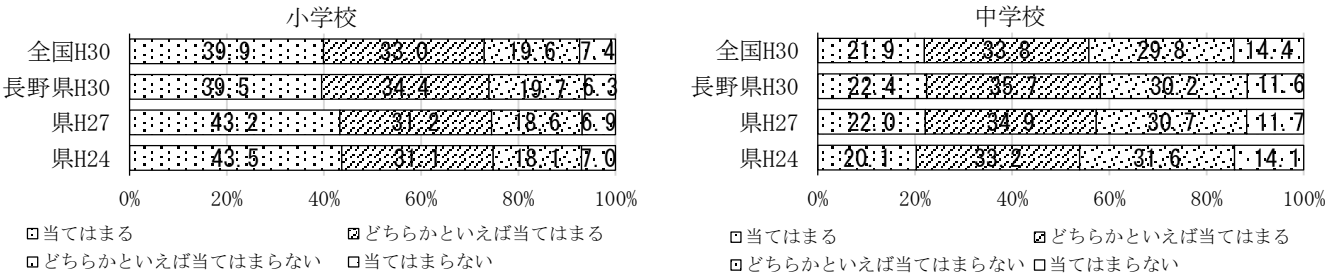
【児童生徒質問紙】理科の勉強は大切だと思いますか。



【児童生徒質問紙】理科の授業の内容はよく分かりますか。



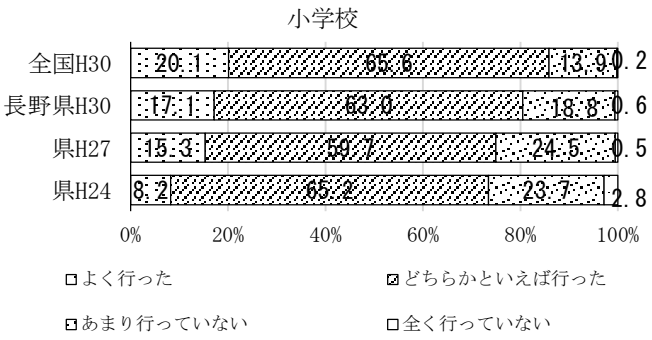
【児童生徒質問紙】理科の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか。

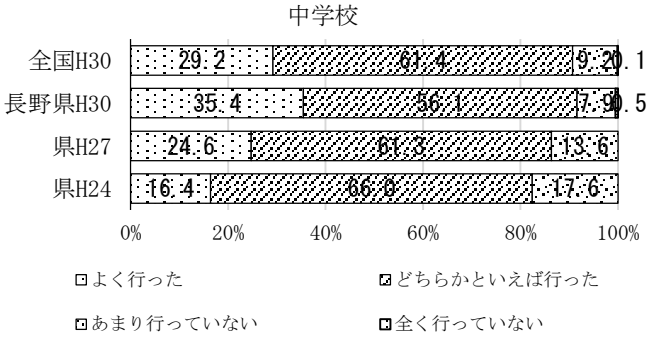


○「調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」との質問に，肯定的な回答をした小・中学校の割合は，平成 24 年度，平成 27 年度に比べで，増加傾向が見られた。
○「調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して，前年度までに，児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか」との質問に，肯定的に答えた小学校の割合は大きな変化はない。中学校は，平成 27 年度と比べると，減少した。
○理科の授業において，児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるように工夫している小・中学校の児童生徒の方が，「理科の勉強が好きだ」と回答する傾向が見られた。

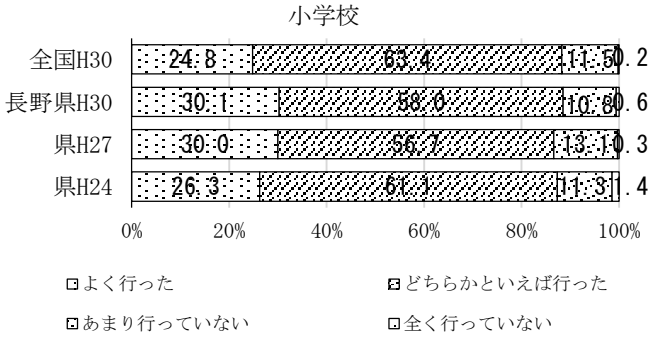
■児童・生徒の興味・関心につながる学校の取組

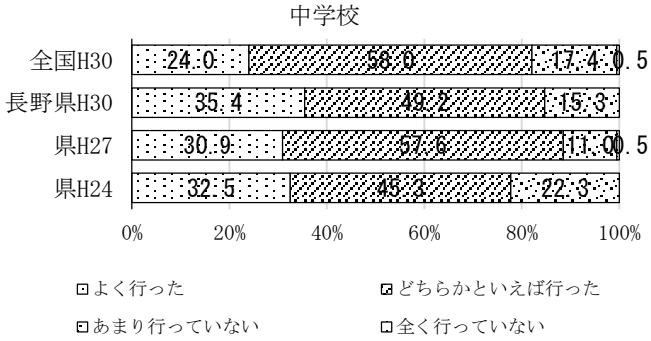
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して，前年度までに，実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。



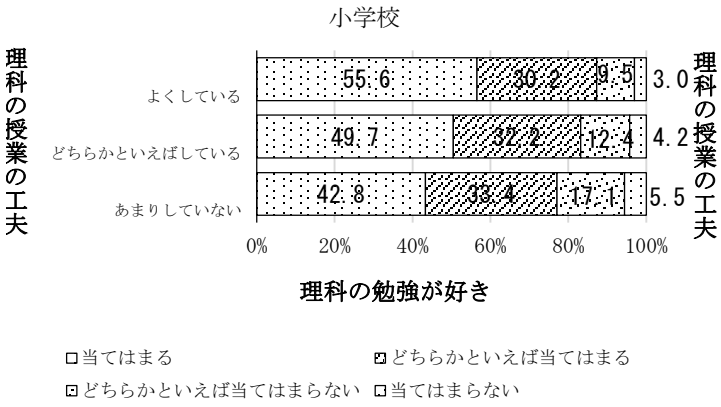


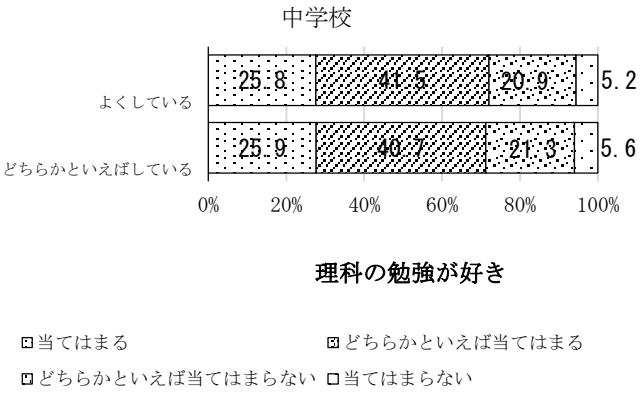
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導に関して，前年度までに，児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか。





〔学〕「理科の授業において，児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるように工夫した」×（児）「理科の勉強が好きだ」

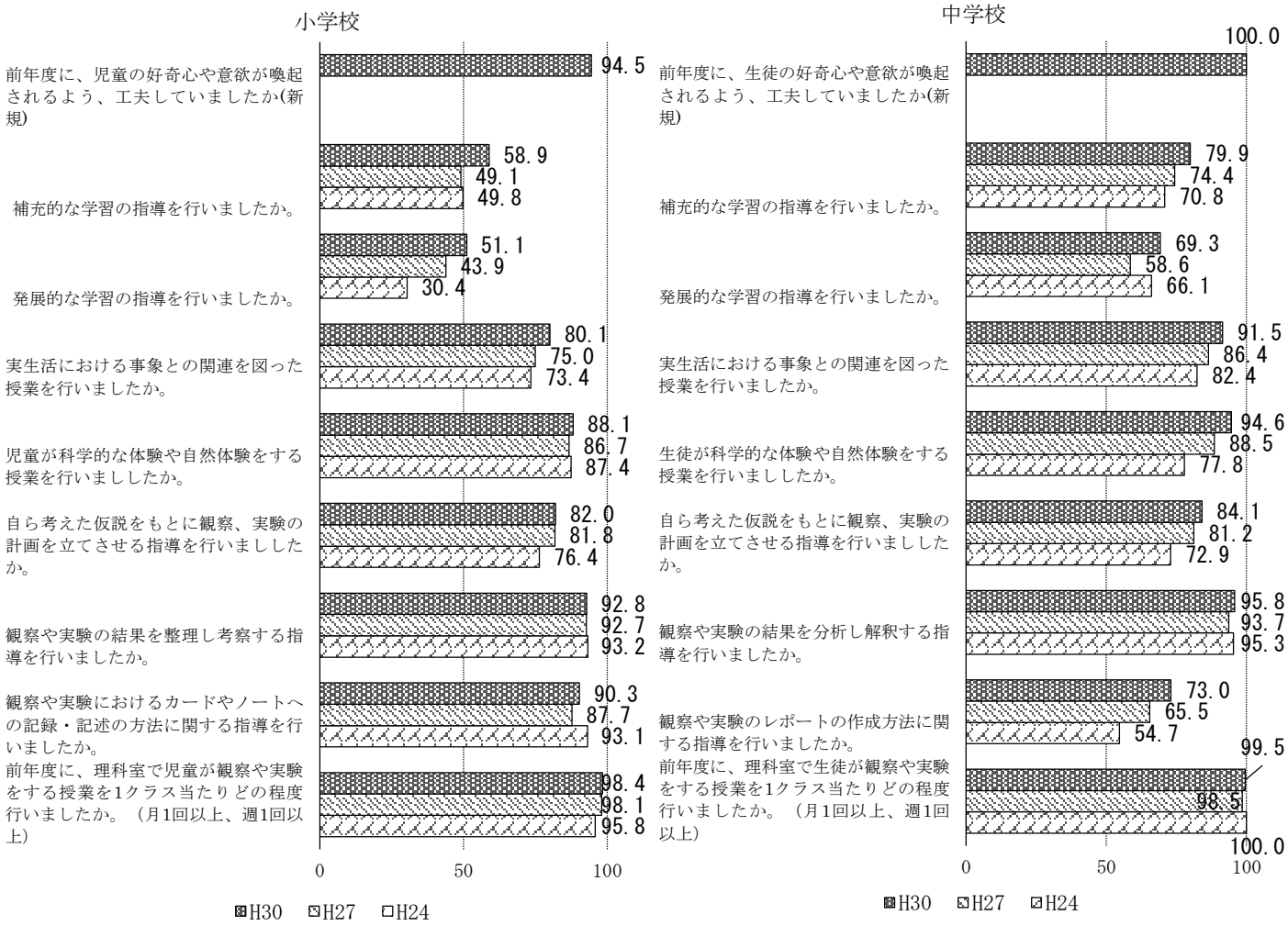




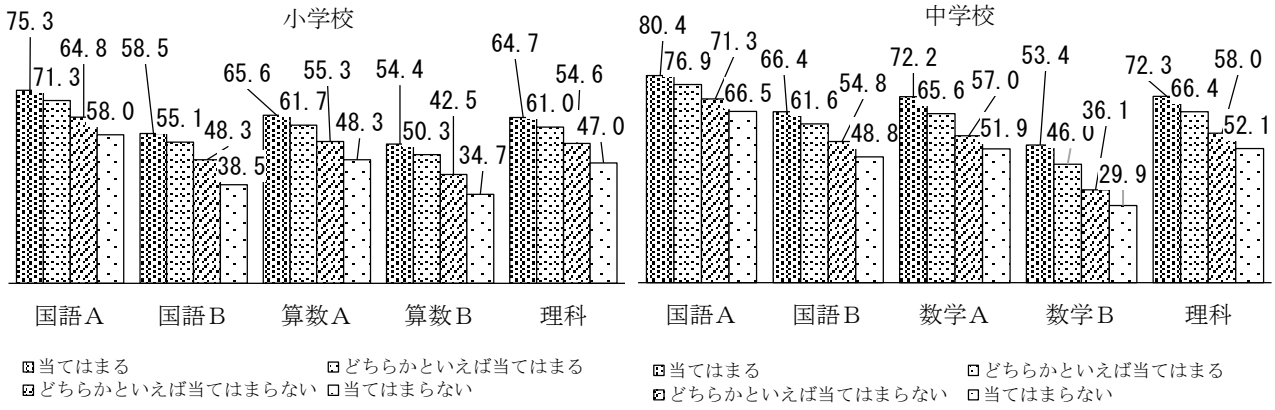
○理科に関する指導方法について，肯定的に回答した小・中学校の割合は，多くの項目において，平成 24 年度，平成 27 年度に比べて，増加傾向が見られた。小学校の「観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導」については，平成 27 年度より増加したが，平成 24 年度より 2.8 ポイント下回っている。
○「理科の授業で，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったのか考えている」（「観察や実験の結果をもとに考察している」）と回答した児童生徒は，理科だけでなく，国語，算数・数学の平均正答率も高い傾向が見られた。

■理科に関する指導方法と学力

【学校質問紙】理科に関する学習指導方法の変化



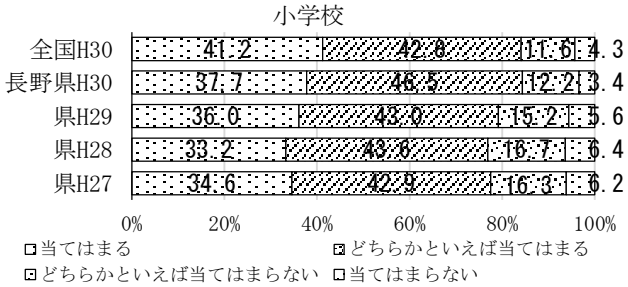
【児童生徒質問紙】理科の授業における観察や実験の結果の考察と平均正答率

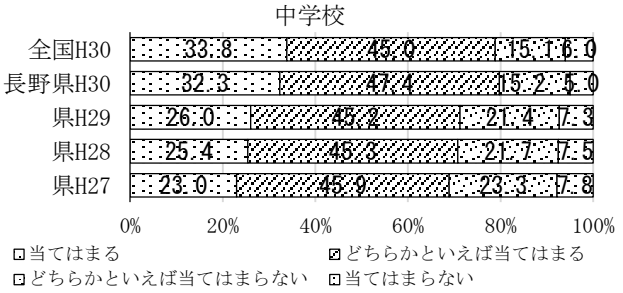


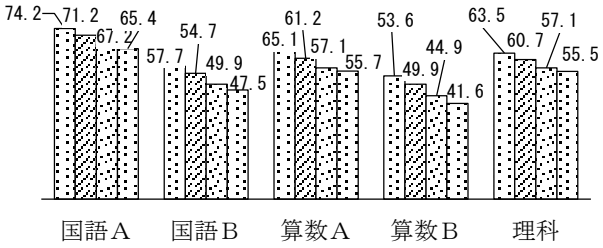
５　児童生徒の自己肯定感等に関する状況

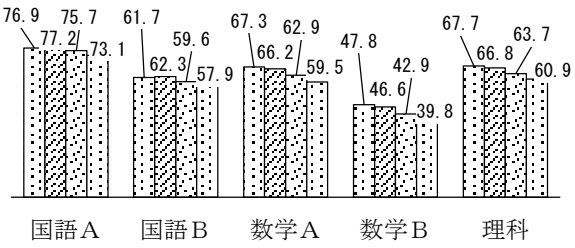
○「自分には，よいところがあると思いますか」との質問に，肯定的に回答した児童生徒の割合は，平成 28 年度以降，増加傾向が見られ，平成 30 年度は約８割となった。また，この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が，小学校では平均正答率が高い傾向が見られた。中学校では，国語において「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」で逆転はみられるが，全体的には肯定的な回答をした生徒の方が，平均正答率が高い傾向が見られる。
○課題解決に向けた主体性，他者との協働に関して肯定的な児童生徒，先生に認められていると感じている児童生徒の方が，自己肯定感が高い傾向が見られた。

【児童生徒質問紙】自分には，よいところがあると思いますか。

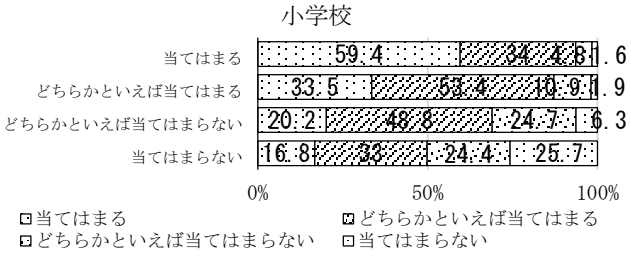


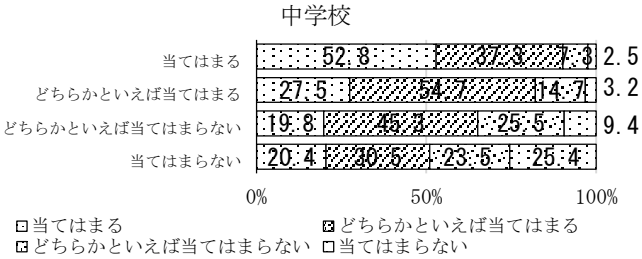




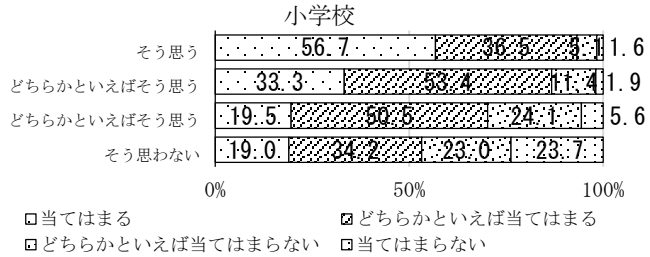


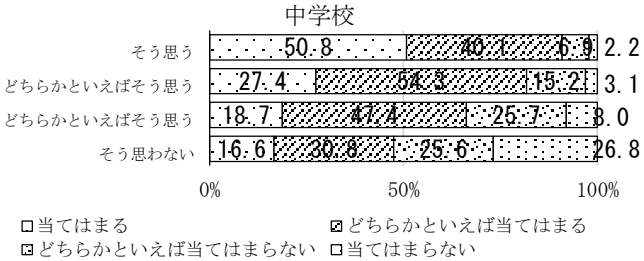
〔児〕「授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んだ」×（児）「自分には，よいところがある」



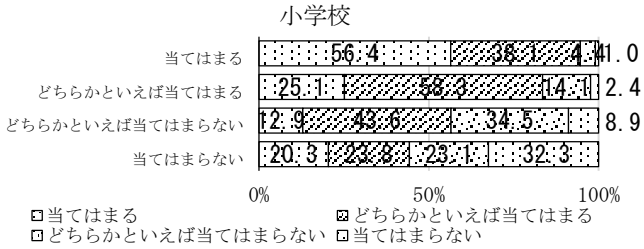


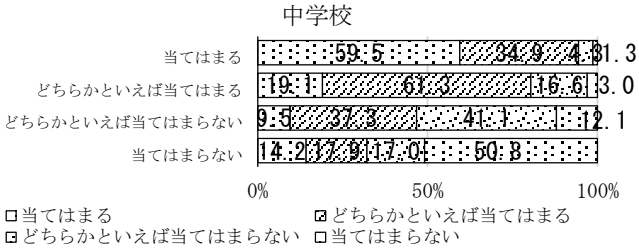
〔児〕「話し合い活動を通じて，自分の考えを深めたり，広めたりできている」×（児）「自分には，よいところがある」





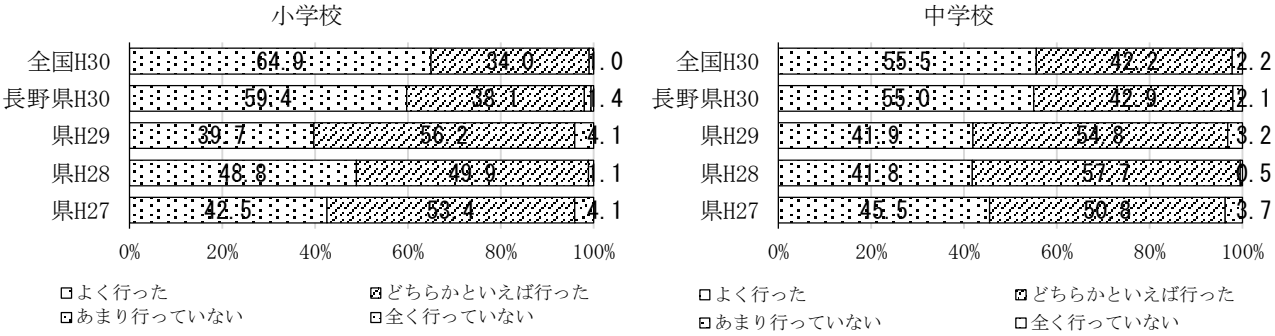
〔児〕「先生は，よいところを認めてくれている」×（児）「自分には，よいところがある」



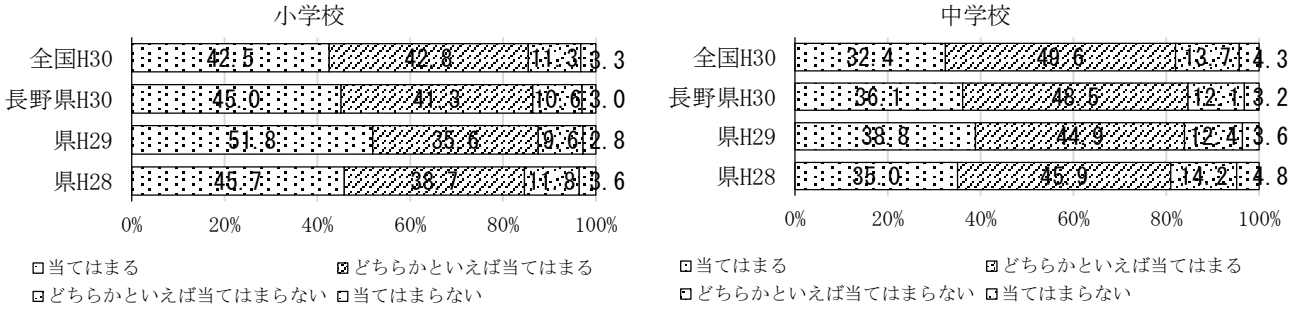


○「学校生活の中で，児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか」との質問に，肯定的に回答した小・中学校の割合は，平成 27 年度以降大きな変化は見られず，毎年９割を越えている。特に，平成 30 年度は，平成 29 年度に比べて，「よく行った」と回答した学校の割合が小・中学校ともに大きく増加した。
○「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に，肯定的に回答した児童生徒の割合は，増加傾向が見られる（小学校では，平成 30 年度は，平成 29 年度より 0.9 ポイント減少した）。
○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」,「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」との質問に，肯定的に回答した児童生徒の割合は，平成 27 年度以降，９割を越えて推移しており，特に，平成 30 年度は，平成 29 年度に比べて「そう思う」と回答した児童生徒の割合が増加している。

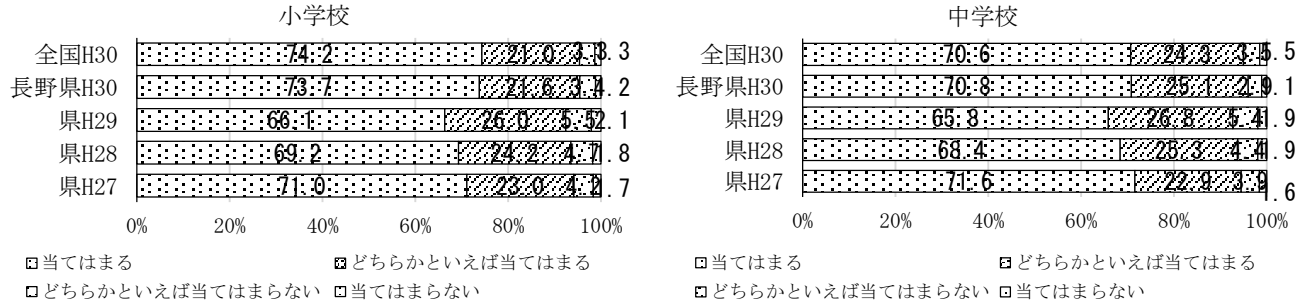
【学校質問紙】調査対象の児童生徒に対して，前年度までに，学校生活の中で，児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。



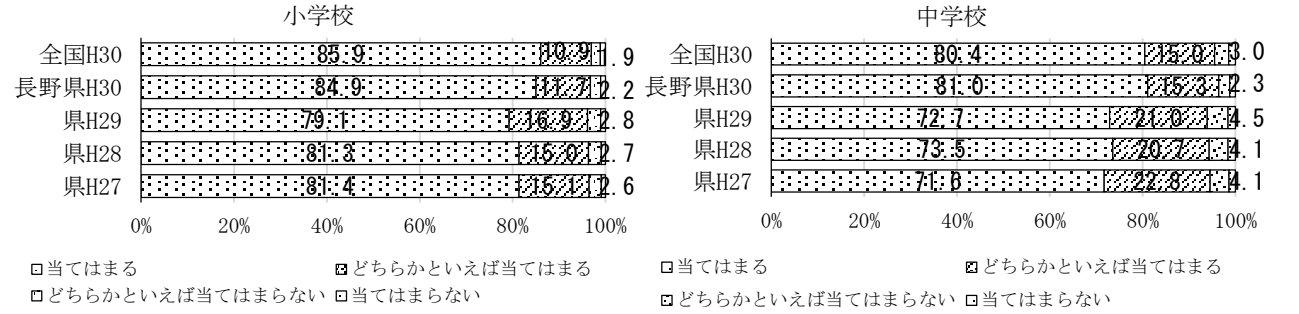
【児童生徒質問紙】先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



【児童生徒質問紙】人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



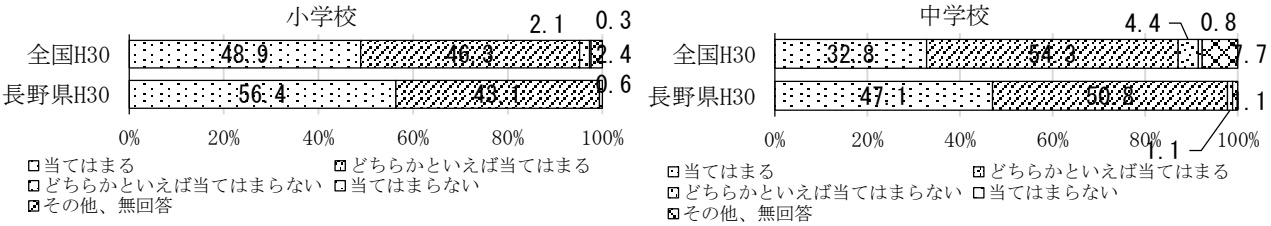
【児童生徒質問紙】いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



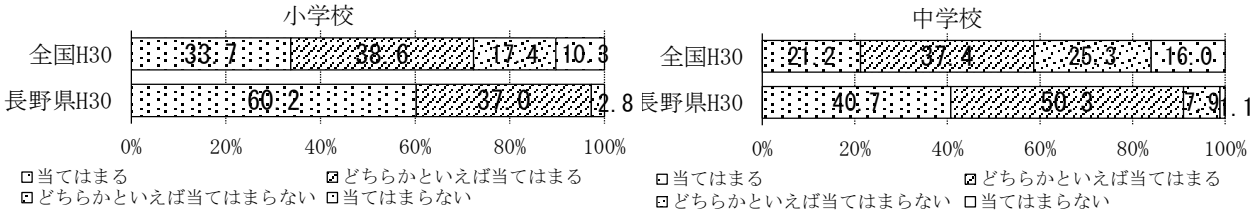
６　地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

○「保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果がありましたか」との質問（新規）に，肯定的に回答した学校の割合は，小・中学校ともに９割を超えている。
○地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして，保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合は９割を超え，全国平均 72.3%を大きく上回っている。同様に，中学校でも９割を超え，全国平均 58.6%を大きく上回っている。
○保護者や地域の人が登下校の見守り，放課後支援などの活動に参加している割合は，小・中学校ともに９割を超えている。
○地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどを活用したり，地域人材が学校の活動に参加したりしている小・中学校の方が，「保護者や地域の人との協働による取組は学校の教育水準の向上に効果がある」と回答する傾向が見られた。

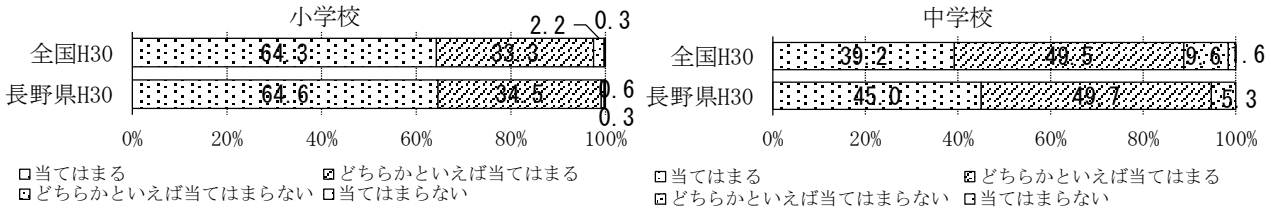
【学校質問紙】保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果がありましたか。（新規）



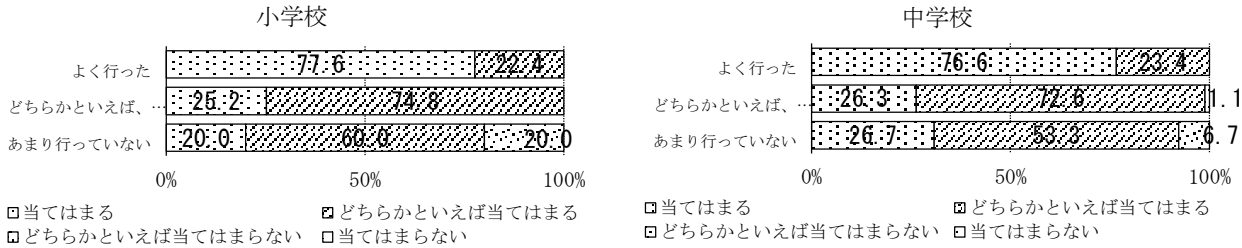
【学校質問紙】地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして，保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか。（新規）



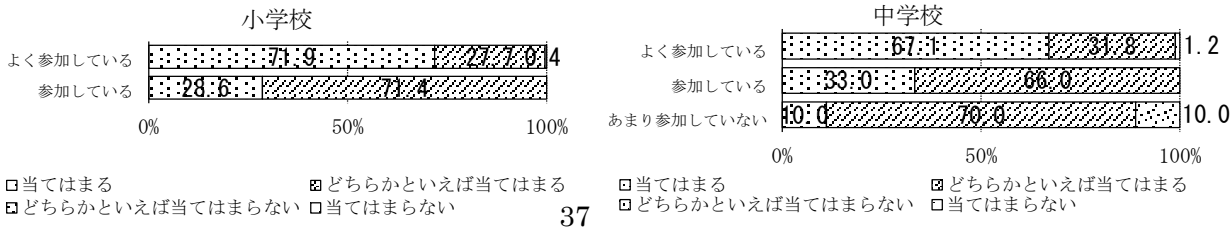
【学校質問紙】保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などの活動に参加していますか。（新規）



〔学〕「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして，保護者や地域の人との協働による活動を行った」
×（学）「保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果があった」

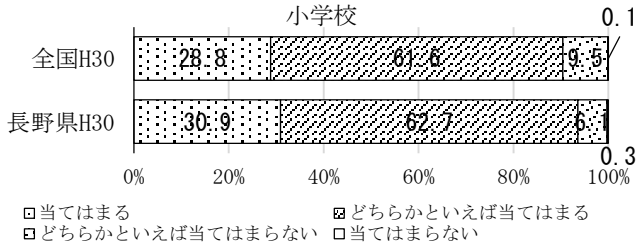


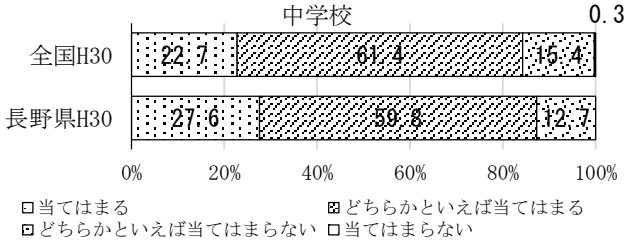
〔学〕「保護者や地域の人が学校の美化，登下校の見守り，学習・部活動支援，放課後支援，学校行事の運営などに参加した」
×（学）「保護者や地域の人との協働による取組は，学校の教育水準の向上に効果があった」



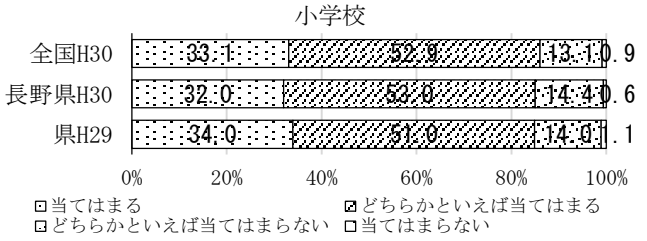
○「教育課程の趣旨について，家庭や地域と共有を図る取組を行っていますか」との質問（新規）に，肯定的に回答した学校の割合は，小学校で９割，中学校で８割を超えている。
○「授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか」との質問に肯定的に回答した小・中学校は，平成 29 年度と比べて，大きな変化は見られない。
○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」との質問に，肯定的に回答した児童生徒の割合は，平成 27 年度以降，増加傾向が見られる。平成 30 年度の児童の割合は約５割，生徒の割合は４割を超えた。
○授業や課外活動において地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会を設けている小・中学校の方が，「教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っている」と回答する傾向が見られた。

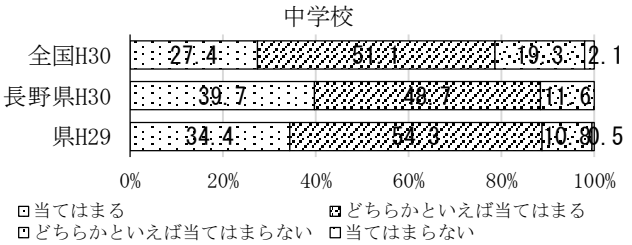
【学校質問紙】教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。（新規）



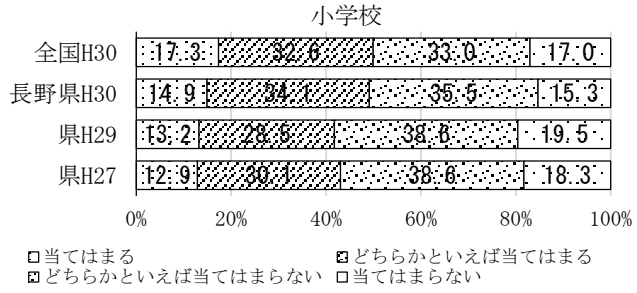


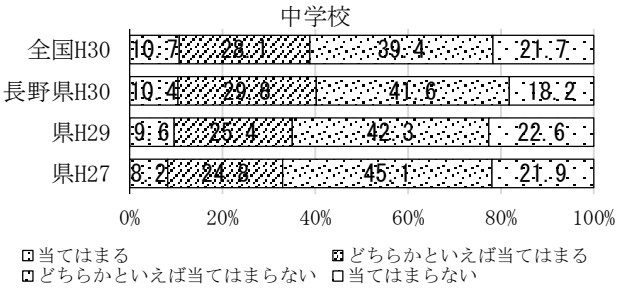
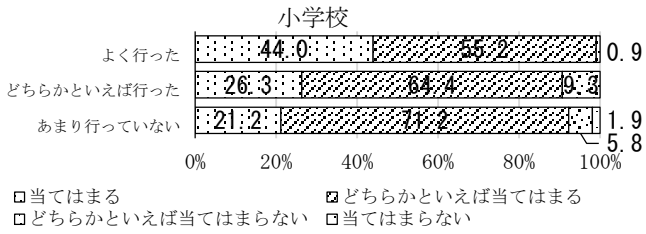
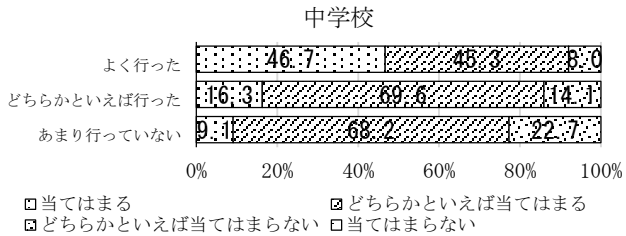
【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対して，前年度までに，授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか。





【児童生徒質問紙】地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。





〔学〕「授業や課外活動で地域のことを調べたり，地域の人と関わったりする機会の設定を行った」
×（学）「教育課程の趣旨について，家庭や地域との共有を図る取組を行っている」